

井原市教育委員会事務
点検・評価報告書
(平成25年度対象)

平成26年12月

井原市教育委員会

井原市教育委員会委員名簿

委員長	藤 井 秀 彦
委員長職務代理者	鈴 木 千 恵
委 員	山 本 嵩 之
委 員	佐 藤 和 代
委 員 (教育長)	片 山 正 樹

目 次

I	教育委員会の事務の点検・評価制度の概要	
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
2	井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検 及び評価の実施方法等について	1
(1)	点検・評価の目的	
(2)	点検・評価の対象	
(3)	点検・評価の方法	
(4)	教育に関し学識経験を有する者の知見の活用	
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催状況	3
2	その他の主な活動	6
III	点検・評価の結果	
	重点施策Ⅰ 生きる力を育む学校づくり（学校教育の充実）	8
1.	確かな学力の育成	11
2.	豊かな心の育成	12
3.	健やかな体の育成	13
4.	学校・家庭・地域社会の連携	13
	重点施策Ⅱ 生涯学習社会に対応する学習機会の提供	14
1.	家庭教育機能の向上	16
2.	社会教育における学習機会の提供	16
3.	多様な学習課題への対応と学習機会の充実	17
4.	芸術・文化活動の振興	17
5.	学習ニーズの把握と学習機会の提供	17
6.	総合的な啓発事業の開催	17
7.	意識を高める啓発活動の推進	17
	重点施策Ⅲ 生涯学習環境の整備と充実	18
1.	生涯学習関連施設の整備と機能の充実	19
2.	公民館の整備と機能の充実	19
3.	生涯学習関連情報の収集と提供の充実	19

重点施策Ⅳ 市民と行政の協働による生涯学習の推進	・ ・ ・ ・ ・	2 0
1. 生涯学習推進本部の機能の充実	・ ・ ・ ・ ・	2 1
2. 生涯学習をすすめる市民組織づくりと活動支援	・ ・ ・ ・ ・	2 1
3. 生涯学習推進担当の体制整備	・ ・ ・ ・ ・	2 1
4. 生涯学習リーダー等の養成と人材バンクの充実	・ ・ ・ ・ ・	2 1
5. 社会教育関係団体等の育成・支援	・ ・ ・ ・ ・	2 1
6. 出前講座の充実	・ ・ ・ ・ ・	2 1
7. N P Oや民間団体等との協働による事業の推進	・ ・ ・ ・ ・	2 1
重点施策Ⅴ 豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）	・ ・ ・ ・	2 2
1. 生涯スポーツの振興	・ ・ ・ ・ ・	2 4
2. 競技スポーツの振興	・ ・ ・ ・ ・	2 4
3. 健康づくり・体力づくり・仲間づくりとしてのスポーツの振興	・ ・ ・	2 5
4. 文化・スポーツ振興財団との連携強化	・ ・ ・ ・ ・	2 5
重点施策Ⅵ 地域文化を体感できる活力あるまちづくり	・ ・ ・ ・ ・	2 6
（芸術・文化の振興と文化財の保存・活用）		
1. 交流を生み出す芸術・文化の振興	・ ・ ・ ・ ・	2 8
2. 文化財の保存と活用	・ ・ ・ ・ ・	2 9
3. 文化・スポーツ振興財団との連携強化	・ ・ ・ ・ ・	2 9
重点施策Ⅶ 生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり		3 0
（時代に対応した教育施設・機能の整備・充実）		
1. 学校（園）施設・設備の整備	・ ・ ・ ・ ・	3 2
2. 社会教育施設・設備の整備	・ ・ ・ ・ ・	3 2

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられた。

併せて、点検及び評価を行うにあたり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされた。

この報告書は、同法の規定に基づき、井原市教育委員会が行った点検・評価の結果について報告するものである。

2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について

(1) 点検・評価の目的

点検・評価は、上記地教行法第27条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育を提供することに資するとともに、住民に対する行政の説明責任を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的としている。

(2) 点検・評価の対象

ア 対象期間

平成25年度を対象期間とする。

イ 対象事務

地教行法に規定する教育委員会の権限に属する事務を対象事務とする。

(3) 点検・評価の方法

「平成25年度教育行政重点施策」の施策・内容・実施事業について達成度により評価した。

・達成度（A～E）

A・・・成果を上げ、目標値を達成している。

B・・・目標値をほぼ達成している。

C・・・目標値には達成していないが、前年度より改善され一定の成果をあげている。

D・・・目標値に達しておらず前年度より悪化しており、十分な成果があがって

いない。

E・・・実績値が未把握、目標値が未設定。

(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地教行法第27条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため「井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会」において、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果に対し、第三者評価委員会委員として委嘱した学識経験者5名から所見・助言を得た。

第三者評価委員会委員の選任にあたっては、本市の「教育現場」への理解度の深さを前提に、教育行政現場における実務経験及び大学における初等教育研究の専門性等を考慮し委嘱した。

○井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員

氏 名	役 職 等
宗 高 弘 子	前就実大学 初等教育学科教授
鳥 越 眞知子	井原市社会教育委員
川 上 親 尚	井原市体育協会 副会長
池 尻 雄 策	井原市文化協会 副会長
三 宅 興太郎	元井原市教育長

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3条の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催状況

井原市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催している。

この会議において、5名の教育委員（教育長1名を含む。）が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃、教科書の採択など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。

このほか、学力向上や不登校防止に係る諸問題、教育委員会会議概要の公開などを協議案件として、事務局との質疑応答や意見交換、教育委員間での協議を行った。

平成25年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

期 日	場 所	附 議 案 件 等
平成25年 4月定例会 (25.4.18)	市役所 503会議室	井原市教育委員会職員の人事異動について 平成25年度井原市一般会計予算（当初）について 地区公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市美星天文台条例施行規則の一部を改正する規則について 井原市立図書館協議会委員の任命について 井原市芳井公民館分館長の任命について
5月定例会 (25.5.23)	市役所 403会議室	地区公民館運営審議会委員の委嘱について 地区公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市立学校園2学期制検証委員会要綱の制定について 井原市立学校園2学期制検証委員会委員の委嘱について 平成25年度学校評議員の委嘱について 井原市社会教育委員会委員の委嘱について 井原市中央公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市美星天文台運営委員会委員の委嘱について
6月定例会 (25.6.18)	市役所 403会議室	地区公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市中央公民館運営審議会委員の委嘱について 井原市奨学資金貸付金借受者の決定について 井原市立井原中学校建設計画検討委員会委員の委嘱について

7月定例会 (25. 7. 18)	市役所 503 会議室	平成25年度井原市一般会計補正予算（第1号）について 平成25年度岡山県学力・学習状況調査の結果について 井原市幼稚園教諭採用試験委員会委員の委嘱について 井原市特別支援教育就学指導委員会委員の委嘱について 井原市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱の制定について
8月定例会 (25. 8. 22)	市役所 503 会議室	井原市スポーツ推進計画策定委員会委員の委嘱について 井原市幼稚園教諭採用試験委員会委員の委嘱について 評価者会議設置要綱の制定について 平成26年度使用井原市立高等学校教科用図書の採択について 平成25年度岡山県学力・学習状況調査の結果の公表について 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について
9月定例会 (25. 9. 19)	市役所 403 会議室	井原市教育委員会委員長の選任について 井原市教育委員会委員長職務代理者の選任について
10月定例会 (25. 10. 24)	市役所 403 会議室	平成25年度井原市一般会計補正予算（第2号）について 図書館相互利用に関する協定について
11月臨時会 (25. 11. 11)	市役所 403 会議室	井原市立学校の学期制について
12月定例会 (25. 12. 19)	市役所 403 会議室	平成25年度井原市一般会計補正予算（第3号）について 井原市社会教育委員会委員の定数及び任期に関する条例の一部を改正する条例について 井原市公民館運営規則の一部を改正する規則について 上野・河合奨学金支給者の決定について 平成26年度全国学力・学習状況調査への参加について 平成25年度末井原市教職員人事異動方針について 井原市立田中美術館学芸員採用試験委員会委員の委嘱について
平成26年 1月定例会 (26. 1. 16)	市役所 403 会議室	井原市立学校評議員の委嘱について 井原市立学校管理規則の一部を改正する規則について 井原市立幼稚園園則の一部を改正する規則について

2月定例会 (26.2.14)	市役所 403会議室	木之子公民館運営審議会委員の委嘱について
3月定例会 (26.3.18)	市役所 403会議室	平成25年度井原市一般会計補正予算(第4号)について 平成26年度井原市一般会計当初予算について 大江公民館運営審議会委員の委嘱について 平成26年度教育行政重点施策について 井原市市費負担教員の任用等に関する規則について 井原市立学校職員服務規程の一部を改正する規程について 井原市いじめ問題対策基本方針について 平成25年度末井原市教職員人事異動の内申について 井原市公民館長及び分館長の任命について
3月臨時会 (26.3.27)	持ち回り	井原市公民館長及び分館長の任命について

2 その他の主な活動

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議・関係行事へ出席している。

平成25年度におけるその主な活動は次のとおりである。

月 日	会議・研修会等	場 所
平成25年 4月 9日 ～ 11日	入学（園）式	市立高校 1校 市立小学校13校 市立中学校 5校 市立幼稚園13園
4月22日	教育問題懇談会	岡山県総合教育センター
5月 8日	市町村教育委員会教育長等人権教育 連絡会	岡山県総合教育センター
5月 9日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 第1回定例会	真庭市勝山文化センター
5月15日	笠岡市・浅口市新任管理職表敬訪問	笠岡市中央小学校、金浦小学校 浅口市
5月20日	高梁川流域総会	倉敷国際ホテル
5月29日 ～31日	第65回全国都市教育長協議会定期 総会・研究大会	北海道旭川市
6月 4日	岡山県教育関係職員ゆとり創造推進 委員会	岡山県庁
6月26日	井原市教育講演会	アクティブライフ井原
7月 2日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会 総会	倉敷アイビースクエア
7月10日	井原市教育委員管内視察	高屋中学校、高屋小学校、 西江原小学校、野上小学校、 出部小学校、出部児童クラブ
7月19日	岡山教育事務所管内教育長連絡会議	ピュアリティまきび
8月 2日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 臨時会	ピュアリティまきび
10月 3日	岡山県知事・県教育長・市町村教育長 意見交換会	岡山県立図書館
10月 6日	第51回井原市民体育祭	井原運動公園陸上競技場

10月 9日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 第2回定例会（台風のため中止）	美作市
10月16日	教育委員会事務事業第三者評価委員会	井原市役所401・402会議室
10月17日 ～18日	中国地区都市教育長会定期総会・研究協議会	山口県山陽小野田市
10月30日	岡山教育事務所管内教育長連絡会議	岡山教育事務所
11月 5日 ～ 6日	市町村教育委員会研究協議会 （第2ブロック）	島根県松江市
11月13日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会 研修会	倉敷アイビースクエア
11月20日 ～21日	井原市教育委員県外視察	福井県坂井市
平成26年 1月14日	緊急教育長会	岡山県庁
1月17日	岡山県PTA連合会研修大会	岡山シンフォニーホール
1月22日 ～23日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 行政視察	高知県高知市
1月25日 ～26日	第34回まなびフェスタ in いばら	アクティブライフ井原
2月 5日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 第3回定例会	おかやま山陽高等学校
3月 1日 ～20日	卒業（園）証書授与式	県立高校 2校 私立高校 1校 市立高校 1校 市立小学校13校 市立中学校 5校 市立幼稚園13園
3月22日	矢掛町総合運動公園竣工記念式典	矢掛町総合運動公園本陣ドーム

重点施策 I 生きる力を育む学校づくり (学校教育の充実)

【学校教育課】

《施策の基本方針》

学校、家庭及び地域社会、関係諸機関との信頼に基づく連携のもとに、次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「確かな学力・豊かな心・健やかな体」などの「生きる力」を育む学校づくりを推進する。

確かな学力の育成については、言語活動を充実させ、少人数指導やきめ細かな指導、教職員研修の充実を図るとともに、放課後学習サポート事業等補充学習を推進する。また、幼稚園における3歳児教育、預かり保育実施の拡大、充実を図る。

豊かな心の育成については、人権尊重の精神を根底とし、道徳教育や読書活動、特別活動等の体験活動などを通して、子どもの規範意識や郷土愛を育む教育を進める。また、いじめ・不登校等の問題の解決に向けて、専門家や関係機関との連携を強化し、相談体制の充実を目指す。

健やかな体の育成については、体育の授業の充実とともに、健康・安全教育や食育の推進を図り、心身共に健康な幼児・児童・生徒の育成を図る。

また、2学期制検証委員会を設置し、2学期制の成果や諸課題等について検証する。

施 策	内 容
1. 確かな学力の育成 (1) 幼児教育の充実 (2) 確かな学力と個の可能性を伸ばす教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新 2学期制検証委員会の開催 ・ 幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実 ・ 幼稚園教職員研修の充実（子育て支援に関する研修） ・ 幼稚園における3歳児教育、預かり保育の推進 ・ 新 ホリデーわくわく学習支援事業（9小学校） ・ 新 放課後学習サポート事業（13小学校） ・ 新 地域土曜学習サポート事業（3小学校区） ・ 新 子ども議会の開催 ・ 新 JAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携事業 ・ 全国標準学力検査の実施 ・ いばらっ子伸びる学力支援事業（非常勤講師8人配置、小1支援員配置） ・ 英語授業の充実（ALT6人の活用） ・ デジタル教科書（小・中学校国語）の活用 ・ 片山科学賞基金運営事業

<p>(3) 高校教育の充実</p> <p>(4) 情報教育の推進</p> <p>(5) 特別支援教育の推進</p> <p>(6) 教師力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実 ・キャリア教育の充実 ・開かれた学校づくりの推進 ・情報モラルに関する指導の充実 ・ICT支援員の配置と活用（2人） ・学習支援員の配置と活用（20人） ・巡回相談員の配置と活用（1人） ・新若手・中堅教員研修の充実 ・新小学校教員英語研修の実施 ・新魅力ある授業づくり徹底事業の実施（荏原小） ・研究指定校による研究発表会（県主小、木之子中） ・井原市学校教育研究会研修事業の実施 ・教育講演会の開催 ・定期及び要請による学校訪問
<p>2. 豊かな心の育成</p> <p>(1) 心の教育の推進</p> <p>(2) 生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新ふるさと井原魅力発見事業（小6・中3 田中美術館、小4 宿泊体験） ・新スポーツふれあい交流事業「夢の教室」（小5） ・新道徳教育実践研究事業（芳井小） ・地域教材を活用した道徳教育の推進 ・学校司書の配置と読書活動の推進 ・人権教育担当者研修会の開催 ・新よりよい学級集団づくり推進事業 ・新魅力ある学校づくり調査研究事業（木之子中学校区） ・不登校児童生徒の適応指導対策事業 （スクールカウンセラー配置事業（小1校、中5校）、 スクールサポーター配置事業（中4校）、家庭環境改善サ ポーター配置事業（小1、中1校）、児童生徒自立支援事 業の実施、訪問カウンセリング事業）
<p>3. 健やかな体の育成</p> <p>(1) 基礎体力・運動能力の向上</p> <p>(2) 保健・安全教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの実施と体力向上の取組 ・チャレンジランキングへの参加 ・健康づくり優良児童生徒表彰 ・新いばらっ子生活リズム向上プロジェクトの推進 ・新防災教育の推進 ・小児生活習慣病予防健診の実施（小4、中1）

<p>(3) 食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教育等の推進 ・交通安全教育の充実 ・防犯意識の高揚と啓発活動 ・新笑顔の食育参観日（朝食パワーアップ事業）の実施（全幼） ・栄養教諭による食育の推進 ・学校給食における地産地消の推進 ・学校給食における食物アレルギーへの対応 ・食育担当者研修会の開催 ・食育講座の開催
<p>4. 学校・家庭・地域社会の連携</p> <p>(1) 家庭や地域の教育力の向上</p> <p>(2) 開かれた学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの活用 ・学校支援地域本部事業の推進（4小学校） ・開かれた学校づくり推進事業の実施 ・学校評価・学校評議員制度の積極的活用 ・学校ホームページの充実

平成25年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

I 生きる力を育む学校づくり（学校教育の充実）

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
1. 確かな学力の育成 (1) 幼児教育の充実	新 2学期制検証委員会の開催	井原市立学校園において実施されている2学期制の成果や諸課題を整理分析し、その対応に向けて協議した。	A	検証委員会で、今後の学期制のあり方について提言書にまとめ提言することができた。	A	
	幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実	各幼稚園の要請訪問等で研究テーマに基づいた教育要領の読み合わせ等により研修を深めた。	A	教育要領で重要視されている人間関係の領域や異年齢交流保育において研究を深めることができた。	A	
	幼稚園教職員研修機会の充実	8月26日に、幼稚園全職員を対象に、幼稚園教諭として資質能力の向上を図る研修会を開催した。	A	幼稚園教諭としての専門性を高め、保育の充実につながった。	A	
	幼稚園における3歳児教育、預かり保育の推進	県主幼・荏原幼において3歳児教育を、荏原幼において預かり保育を開始した。	A	施設等において課題もあり、実施拡大に向けては、今後も引き続き検討が必要である。	A	
(2) 確かな学力と個の可能性を伸ばす教育の推進	新 ホリデーわくわく学習支援事業	長期休業日等を活用して、教員OB等が補足的・発展的な学習や「学習の手引き」等を活用した家庭学習をサポートすることで児童生徒の学力向上の推進を図った。	B	地域の方々の協力を得て、取り組んだ。長期休業中に行う事業で、指導の継続という課題が残った。	B	
	新 放課後学習サポート事業	小学校に支援員を配置し、放課後に補足的な学習等を実施することで、学習内容の確実な定着を図り、児童の学力向上を図った。	A	地域の方々の協力を得て、すべての小学校で取り組むことができた。	A	全ての小学校での実施は大変評価できる。今後は中学校においても、部活等の問題はあがるが、必要となるのではないかと。
	新 地域土曜学習サポート事業	公民館等で、地域の教員OB等の人材を活用して、土曜日学習を実施し、児童の学力向上を図るとともに、地域の教育力の向上及び、学校と地域との連携を深めた。	A	地域の方々の協力を得て、3小学校で取り組むことができた。	A	
	新 子ども議会の開催	井原市制施行60周年記念事業の一環として、平成25年7月13日に子ども議会を開催し、児童への市制への関心及び議会における議員活動への理解を深めた。	A	井原市制施行60周年記念事業にふさわしい会となり、市民にも啓蒙できた。	A	
	新 JAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携事業	美星小学校で、JAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携授業「どきどきわくわく宇宙体験～宇宙の神秘を探る～」を平成25年7月3日、9月26日、11月25日の3日間行った。	A	美星の環境を生かし、JAXAの専門的な支援のもとで地球や宇宙についてより詳しく学習することができた。	A	
	全国標準学力検査の実施	新学習指導要領で示されている学力（基礎基本・思考力判断力表現力等）育成を図るための検査を実施した。	B	小中学校児童生徒の学力状況を把握することができた。	B	
	いばらっ子伸びる学力支援事業（非常勤講師配置、小1支援員配置）	少人数指導充実のための市費非常勤講師配置 算数・数学科、国語科、英語科等において習熟度別指導を実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図った。高屋小、荏原小、出部小、5中学校に配置。	A	基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。	A	
	英語授業の充実（ALTの活用）	市内幼稚園・小・中・高等学校へALT6人を派遣。小学校外国語活動、国際理解教育、外国語授業の助手として充実した働きをしている。1日の授業は3時間から5時間。1日7時間勤務。市内小学校では全校で年間35時間外国語活動を行った。	A	ALTは充実した働きをしている。学校でも活用されている。	A	小学校の先生のカリキュラムをきちんと作成する必要はある。ALT任せにはいけない。
	デジタル教科書（小・中学校国語）の活用	小学校国語の授業においては積極的に活用されている。児童の学習意欲向上、基礎基本の定着のために有効である。	B	小学校では十分活用されているが、中学校での活用状況は今一歩である。	B	小学校では基礎能力の定着に効果的に活用されているようだが、中学校でも有効に活用されるよう検討されたい。
	片山科学賞基金運営事業	片山科学子ども教室を、芳井生涯学習センターで8月8日に開催した。科学する心の育成に資するため、小・中学校の児童生徒の科学研究・発明工夫を表彰した。表彰された作品は「科学する心」という研究収録にまとめられた。	A	片山科学賞は26回を数え、科学する心の育成に寄与している。	A	
(3) 高校教育の充実	基礎学力の充実	入学当初の学習ガイダンスや家庭学習時間調査を実施し、予習・復習の学習方法を理解させ、家庭での学習習慣を定着させている。習熟度別・少人数での授業・複数の教員での対応など、生徒一人ひとりに「分かる授業」が実感できるよう工夫と実践を繰り返している。	A	学習方法を理解することから始まり、基礎学力を充実させ、進路保障に繋げている。	A	
	キャリア教育の充実	4年間を見通した体系的な指導計画を立て、職業体験学習・事業所見学・進路講演会など、毎月進路行事を実施し、自分にあった進路の早期決定を促した。特に3年次の学校設定科目インターンシップに重点を置き、保護者との連携を強化した。	A	4年間の集大成として、昨年度、一昨年度に引き続き進路決定率進学100%、就職100%を達成した。	A	
	開かれた学校づくりの推進	学習指導要領のねらいに沿った教育課程を工夫する中で、学校が家庭や地域社会との連携を進め、家庭や地域社会とともに子どもたちを育成する「開かれた学校づくり」の推進にかかわる諸活動を行い、子どもたちの「生きる力」の育成を図った。	A	学校が家庭や地域社会と連携を進め、家庭や地域社会とともに子どもたちを育成する「開かれた学校」づくりが推進されている。	A	
(4) 情報教育の推進	情報モラルに関する指導の充実	県総合教育センター、県義務教育課等作成の資料等を配布し、指導を徹底した。警察生活安全課やN T Tの出前講座を活用した。	A	生徒指導上の問題に、ライン等のトラブルが増加し、対策が急務であった中、大変有効で効果的であった。	A	
	I C T 支援員の配置と活用	学校でのI C T 活用を推進するため、授業や研修等において教育のI C T 活用をサポートする「I C T 支援員」を配置し、教育活動の充実を図った。2人配置 学校H P の更新、教材作成補助、ネットワーク調整等を行った。	B	情報モラル指導の具体的な提案が効果的と思われる。	B	

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
(5) 特別支援教育の推進	学習支援員の配置と活用	原則として通常学級に在籍する特別支援の必要な児童生徒の支援を行った。 6時間×200日 20人(高小1、大小1、稲小1、県小1、木小1、荏小2、西小2、野小0.5、井小1、出小2 美小1、芳小1.5、5中学校へ各1人)	A	成果は大きい。特別支援の必要な児童数増に伴い、今後増員の必要性がある。	A	この制度は大いに評価できる。
	巡回相談員の配置と活用	巡回相談員1名を配置し、保育園・幼稚園・小学校・中学校への巡回相談を実施した。	A	専門家を学校へ派遣することによって、適切な指導助言を受け、特別支援教育に関する指導の改善を行うことができた。	A	
(6) 教師力の向上	新 若手・中堅教員研修の充実	近隣市町と主に、井原市で中堅研修会を8月2日に、笠岡市で若手研修会を8月22日に行い、教員の指導力向上を図った。	A	教員の指導力向上とともに、ネットワークづくりにも効果的であった。	A	
	新 小学校教員英語研修の実施	市内の小学校教諭10名が、10日間の遠隔英語研修を受け、教員の指導力向上を図った。	A	10日間集中して英語に触れることで、英語を使つてのコミュニケーション力を高め、児童への指導の充実を図ることができた。	A	
	新 魅力ある授業づくり徹底事業の実施	児童生徒に確かな学力を育成する授業の実現に向け、指導主事や教員OB等を積極的に派遣し、授業改善に向けた指導・助言等や校内研修等の支援を継続的に行うことで教員の授業力の向上を図った。	A	県外の先進校視察も行き、県内に好事例を広めることができた。	A	
	研究指定校による研究発表会	県主小学校、木之子中学校において、研究成果を発表した。	A	各校の児童生徒の実態に基づき、新学習指導要領の指導内容を踏まえた学習指導法の研究を進めることができた。小中連携を有機的な形で実行することができた。	A	
	井原市学校教育研究会研修事業の実施	各班において夏季休業中の班会等を開催した。	A	教職員の自主的な研修を推進することができた。	A	
	教育講演会の開催	6月26日(水)14~16時 アクティブライフ井原 早稲田大学教授 河村 茂雄 先生 演題:「子どもたちも先生も、心から笑顔になれる学級を育てたい」 市内幼小中高教員PTA約300人参加	A	学級集団づくりの基礎基本について学ぶことができた。ほとんどの参加者が講演内容に共感し、今後の教育活動に生かそうという気持ちをもつことができた。	A	
	定期及び要請による学校訪問	定期の学校訪問:5月~7月にかけて実施。諸帳簿の検閲、授業視察等を含め、教職員と協議・懇談を行い、教育実践の向上に努めた。要請訪問:随時 研究授業を中心に、指導方法の研究、工夫改善を図った。各校園 1回~2回実施	A	学校の実態を把握し、授業力向上、指導方法工夫改善、服務関係について具体的な指導助言を行うことができた。	A	
2. 豊かな心の育成 (1) 心の教育の推進	新 ふるさと井原魅力発見事業	児童生徒を対象に、田中美術館見学、古代文化財センターでの体験学習、星の郷ふれあいセンターでの宿泊研修を実施し、ふるさと井原の魅力を発見し、自信と誇りを持たせるとともに、豊かな体験を通じた道徳性の育成を図った。 田中美術館・まほろば館:全小6、全中3 宿泊:小4 高屋小、稲倉小、出部小	B	宿泊研修が初めての小学校4年生ということや、食事の確保など計画面での不安はあったが、各校工夫や協力をして、豊かな体験活動を行った。	B	
	新 スポーツふれあい交流事業「夢の教室」	全小学校13校の5年生を対象に夢をかなえるために努力した日本のトップアスリートを「夢先生」として派遣し、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを学ばせる。	A	児童は本物と出会うことで、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを学べた。	A	
	新 道徳教育実践研究事業	芳井小学校において、道徳教育の一層の充実を目指し、教育活動や日常生活の中で、授業の中で触れた道徳的価値をいかに実践に結び付けていくかということを研究した。	A	平成26年度の研究発表会に向け、研究を進め指導の充実を図った	A	
	地域教材を活用した道徳教育の推進	郷土の偉人を題材とした教材を用い、生徒の実態に合わせ工夫して授業に活用した。	B	地域の実態に応じたもので、各学校の取り組みに差がある。	B	
	学校司書の配置と読書活動の推進	学校司書9人配置。学校図書館司書による自主研修活動を実施した。 内容:図書管理、推薦図書の紹介方法等。児童生徒への広報活動、朝読書の取組の充実、読書の時間の確保、家庭読書の充実等を各学校に呼びかけた。	A	司書同士の情報交換を行うことができ、図書館教育の充実を図ることができた。	A	
	人権教育担当者研修会の開催	人権班会を開催し、人権教育を推進する上での課題について協議した。	B	人権教育、発達障害に対する理解の推進に取り組んだ。	B	
(2) 生徒指導の充実	新 よりよい学級集団づくり推進事業	年2回、児童生徒を対象に、学級内での子ども同士の人間関係についてアンケート調査を実施し、いじめや不登校の早期発見及び未然防止を図るとともに、学級崩壊を予防し、よりよい学級集団づくりを推進した。	A	いじめや不登校、学級崩壊の予防等よりよい教育実践のために活用した。	A	平成26年度以降の継続的な取組に期待したい。
	新 魅力ある学校づくり調査研究事業	不登校の未然防止を推進するため、児童生徒の豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成する「魅力ある学校づくり」について調査研究した。	A	不登校率が減少するとともに、小中連携が進んだ。	A	中1ギャップの解消等、評価できる
	不登校児童生徒の適応指導対策事業	・適応指導教室において、不登校児童生徒に適応指導を行った。通室した児童生徒は22人であった。(小3人、中19人) ・県の事業により配置されたスクールカウンセラーを活用した。(井原小、中学校5校) ・スクールサポーター配置事業(中4校)の実施し、児童生徒の教育相談、ケース会議参加、適応指導教室との連絡調整にあたった。 ・家庭環境改善サポーター配置事業(小1、中1校)の実施し、児童生徒の教育相談、ケース会議参加、適応指導教室との連絡調整にあたった。(出部小・井原中) ・児童生徒自立支援事業を実施し、学校や適応指導教室その他関係機関との連携強化を図る問題行動対策コーディネータを1名配置し、不登校児童生徒の自立支援のための事業を実施した。 ・訪問カウンセラー事業の推進し、訪問カウンセラーが定期的に学校や不登校傾向をもつと思われる児童生徒の家庭等を訪問し、指導を行い、不登校の未然防止に努め、出現率を下げる事業。訪問カウンセラー1名を配置した。	A	大山塾への通室する児童生徒が増加し、学校復帰の効果も見られた。 不登校問題の他、生徒指導上の諸問題に対応できた。 不登校児童生徒の学校復帰に向けての効果があつた。	A	

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
3. 健やかな体の育成 (1) 基礎体力・運動能力の向上	新体カテストの実施と体力向上の取組	小中学校全校実施。その結果を各校で分析し、課題を明らかにし、体力向上の取り組みを行った。	A	業間運動、県主催のチャレンジランキングへの参加等、各校で自主的な取組を行った。	A	
	チャレンジランキングへの参加	児童が様々な運動(運動遊び)に取り組み、みんなで協力して記録に挑戦することを通して、運動の楽しさと感動を味わわせとともに、運動やスポーツへの関心を高め、体力の向上を図った。	B	自由参加のために、各学校ごと取り組みに差があった。	B	
	健康づくり優良児童生徒表彰	健康づくりに努力している児童・生徒の表彰を行い、健康に対する関心と意欲を高めた。学校保健会において表彰を行った。小学校10人、中学校1人 計11人を表彰。1月23日(木)審査会開催	A	児童生徒の健康に対する関心と意欲が見られるようになった。	A	
	新 いばらっ子生活リズム向上プロジェクトの推進	市内の保育園・幼稚園児から高校生までの、すべての子どもを対象として、生活リズムの向上と改善に取り組む、子どもの意欲や学力、体力の向上、情緒の安定を図ることを目的に実施した。	A	園児、児童の健康に対する関心と意欲が見られるようになった。	A	
(2) 保健・安全教育の推進	新 防災教育の推進	学校の危機管理マニュアルや防災計画の確認とともに、定期的な避難訓練等の実施について指導した。	A	各校の実態に合わせた計画のもと、防災意識の高揚に効果があった。	A	
	小児生活習慣病予防健診の実施	小学校4年生368人、中学校1年生417人を対象に実施。	A	結果により生活の改善が認められる児童・生徒が見受けられ、効果があった。	A	
	薬物乱用防止教室等の推進	各校において、性教育・エイズ教育及び薬物乱用防止教室を実施した。	A	定着してきており、計画的な実施となっている。	A	
	交通安全教育の充実	各校・園交通安全教育実施(年間2回程度実施)	B	幼児・児童・生徒の交通安全意識の向上が図られた。	B	
	防犯意識の高揚と啓発活動	各校・園防犯教育実施(年間1~2回実施)	B	幼児・児童・生徒の防犯意識の向上が図られた。	B	
(3) 食育の推進	新 笑顔の食育参観日(朝食パワーアップ事業)の実施	保健センターから栄養士が幼稚園に行き、食育指導と、調理実習から会食までを、園児と保護者を対象におこなった。全園1回の実施。	A	朝食をきちんと取ることの必要性について保護者に啓蒙できた。	A	
	栄養教諭による食育の推進	学校給食センター及び美星調理場ともに、栄養教諭1名・学校栄養職員1名の2名体制となり、栄養教諭が積極的に校へ出向き、給食を活用した食に関する指導を行い、食育の推進を図った。	A	各校園において食に関する指導を積極的に実施した。また、栄養教諭による授業や学校保健委員会への参画が定着した。お勧めレシピの配布や試食など内容も充実してきた。	A	
	学校給食における地産地消の推進	地元生産者団体との連携・調整を図った。地場産物の利用を拡大するための献立の工夫、給食だより(献立によせて)に地場産物を紹介。食育通信「スクールランチ」への掲載・発刊。	A	地場産物の活用に努めた。子どもたちに、農産物の旬や、地域の産物を伝えることができた。	A	
	学校給食における食物アレルギーへの対応	食物アレルギー調査実施。アレルギー記載予定献立表の配付。学校給食センターは、卵除去食を提供。美星調理場は、代替食・除去食を提供。	A	除去食等の提供。アレルギー記載予定献立表の配付により、家庭の協力をいただきながら対応することができた。	A	
	食育担当者研修会の開催	6/17に開催。食育推進について栄養教諭が説明。次に、各校園の食に関する指導に係る全体計画をチェック。最後に、高屋中学校の運動部の生徒を対象に栄養教諭がスポーツ栄養について指導を行っており、その実践事例発表を該当校より行った。	A	各校園の食に関する指導や取り組みの一層の充実に努めた。	A	
	食育講座の開催	地元産の食材を使用し、弁当作り講座を8月に開催。美星を会場として、収穫体験・親子調理実習を11月に開催。	A	生産者、給食センター、学校(給食主任・児童・生徒)、保護者との交流ができた。また、野菜等の食材を身近に感じてもらい、農業や食に関する意識の高揚を図ることができた。	A	
4. 学校・家庭・地域社会の連携 (1) 家庭や地域の教育力の向上	学校支援ボランティアの活用	各校において、放課後等の学習支援、各教科、道徳、総合的な学習の時間等における学習支援ボランティアを募集し、児童生徒の学習活動の支援を行った。	B	小中学校においては、それぞれの学校で積極的に活用でき、成果を上げることができた。	B	
	学校支援地域本部事業の推進	大江小学校、野上小学校、井原小学校、西江原小学校において、学習支援、環境整備、学校行事の支援子どもの安全確保などが地域住民のボランティアによって行われた。	A	学校とコーディネーターが連携して地域住民による学校支援ボランティア活動を行うことができ、他の地域のモデルとなっている。	A	
(2) 開かれた学校づくりの推進	開かれた学校づくり推進事業の実施	学校が家庭や地域社会と連携を図り、ともに子どもたちを育成するための事業を委託。小学校13校、中学校5校、市立高校1校。	A	小学校では地域の人との交流学习や伝統文化の継承、中学校では地域に根ざしたボランティアや郷土学習に活用された。	A	
	学校評価・学校評議員制度の積極的活用	幼・小・中・高で各学校の取り組みについて、学校評価を実施し、成果と課題を明らかにした。	A	幼・小・中・高で学校評価(自己評価、学校関係者評価)を実施し、市教委へ報告書を提出した。	A	
	学校ホームページの充実	学校ホームページを開設し、積極的に学校の取組の紹介を行った。全ての小・中・高等学校で運用した。	A	すべての小・中・高等学校でホームページを立ち上げ、随時更新を行い、情報公開に努めている。	A	

重点施策Ⅱ 生涯学習社会に対応する学習機会の提供

【生涯学習課】

《施策の基本方針》

子どもたちが、心身ともに健やかに成長していくよう、家庭教育に関する学習機会を拡充するとともに、市民が、生きがいのある充実した人生を送れるように、生涯学習の支援、社会教育活動の拡充に努める。

また、人権の問題や高度情報化等にともなう現代的課題に適切に対応していくため、市民が気軽に参加できる講座や学習機会を増やすとともに、積極的な情報提供に努める。

さらに、生涯学習関連施設の開館日時等の見直しを図り、市民のニーズに沿った学習環境を整備するとともに、学習成果の発表の場でもある生涯学習の集い等の開催を通して、一層の普及啓発に努め、学びの意識を高めていく。

施 策	内 容
1. 家庭教育機能の向上	①子育て支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課、保健センター、図書館との連携・協力 ・井原子育てネットワーク協議会との連携 ②子育てに関する学習機会の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた課題別子育て講座の開催 (親育ち応援講座を含む) ・子育て支援講演会の開催 ・子育てイベントの実施 ・子育てサポーターの養成及び活動支援(派遣託児の実施) ・家庭教育学級(中央・各地区)、幼児教育学級、婦人学級等の支援
2. 社会教育における学習機会の提供	①子どもの学習生活環境の整備充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書活動推進事業 絵本づくり講座の実施 読み聞かせボランティアの養成 年齢別絵本ガイドの増刷 ・学びのポイントラリーの推進 ・子ども情報紙「でんしょぼと」の発行 ・笑って健康元気アップ事業 【生活リズム向上・食育事業(のびのび合宿)の実施】 ・新いばらっ子生活リズム向上プロジェクト事業 ・ブックスタート事業の実施 ②青少年の健全育成 <ul style="list-style-type: none"> ・連合少年団 少年団体等指導者養成講座・ジュニアリーダー養成講座 ・連合少年団 少年レクリエーション大会の開催 ・新少年団指導者ブックの活用

	<ul style="list-style-type: none"> ・友好親善都市児童交流事業（魚津市・大田原市）の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人の主體的な取り組みによる成人式の実施 ・地区青少年を育てる会の活動支援 ・夏のボランティア体験事業の実施 ・青少年育成センター事業、教育相談室事業の推進 <p>③成人期の生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人大学講座の開設 <p>④高齢期の生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者学級の開催(寿大学院、芳寿大学、長寿学級・むつみ会)
3. 多様な学習課題への対応と学習機会の充実	<p>①情報化に対応した情報教育の基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン講座の開催 <p>②人権が尊重されるまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらしと人権講座の開設 ・諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進(P T A、地区企業等) ・市長部局との連携による人権教育、啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進 ・ふれあいセンターでの交流活動等の推進 <p>③新生涯学習関連施設の開館日時等の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブライフ井原、芳井生涯学習センター、美星公民館の開館日時等の見直し（すべての土・日曜日の開館など）
4. 芸術・文化活動の振興	<p>①交流を生み出す芸術・文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化講演会、コンサートの開催 ・優秀映画鑑賞会・子ども映画会の実施 <p>②成果発表の場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の集いの開催等(作品展示、体験講座、舞台発表等)
5. 学習ニーズの把握と学習機会の提供	<p>①学習ニーズや意識の把握と学習機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種事業等開催時のアンケート調査の実施
6. 総合的な啓発事業の開催	<p>①学習意欲を高揚するイベント等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の集い、文化祭等の開催
7. 意識を高める啓発活動の推進	<p>①CATVや広報誌等による啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する啓発番組や記事の掲載

平成25年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

II 生涯学習社会に対応する学習機会の提供

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価		
1. 家庭教育機能の向上	①子育て支援体制の整備	つどいの広場（子育て支援課）職員、健康医療課職員、図書館司書、読書ボランティア等で井原子ども読書推進実行委員会を構成。実行委員会を年2回開催し、子ども読書推進事業計画の説明、実施方法の意見交換、翌年度事業計画の作成及び事業実施後の検証・評価を行った。	A	学校、行政、ボランティアなど関係部署と連携・協力しながら事業を実施することができた。	A	
		井原子育てネットワーク協議会との連携	A	福祉部局・教育委員会が連携し、様々な場面で子育て支援事業を展開することができた。	A	
	②子育てに関する学習機会の拡充	ライフステージに応じた課題別子育て講座の開催（親育ち応援講座を含む）	5つのステージに分けて子育て講座を実施した。 妊娠期子育て講座 年 6回 参加者延べ 49名・幼児期子育て講座 年 18回 参加者延べ 1,133名 学童期子育て講座 年 11回 参加者延べ 696名・思春期子育て講座 年 4回 参加者延べ 923名 その他の機会を活用した子育て講座 年 2回 参加者延べ 45組。 親の学び推進事業の一つとして、親育ち応援出前講座を実施した。親育ち応援学習プログラムにそったワークショップ型学習会を7/10、7/25、9/13、9/14、11/20、12/14、1/17、2/7の8回実施。参加者延べ 127名。	A	各校園が各ライフステージの課題に応じた子育て講座になるよう、テーマや学習方法、講師の選定等を工夫して行っている。 親育ち応援学習プログラムにそったワークショップ型学習会が周知され、保護者間の交流や意見交換の場となり、保護者にとっては子どもの成長について再認識するよい機会となっている。	A
		子育て支援講演会の開催	中央家庭教育学級とくらしと人権講座、成人大学講座の3講座合同で子育ての講演会を実施。参加者 242名。	B	子育ては市民にとって大切な分野であるため、事業を継続していく必要がある。今後も講師や周知方法の検討を重ねながら実施していく。	B
		子育てイベントの実施	子育てサポーターが中心となり開催する、子育てイベント「第11回 ほっぶすてつぷおやこdeぼん」を9/22に開催した。音を見よう！聞こう！触れよう！をテーマに、メルヘンウインドアンサンブルにご協力いただき、音当てクイズや楽器演奏体験などの内容とした。参加者は 139名（子ども76名・保護者63名）	A	音当てクイズや楽器の演奏体験をとおして、日頃とは違った角度で音を感じることで、子どもだけでなく大人も一緒に楽しむことができ、家族のふれあいの場となることができた。	A
		子育てサポーターの養成及び活動支援（派遣託児の実施）	11/23、11/27、11/30、12/8、12/14の全5回、子育てサポーター養成講座を開講し、新規サポーターの養成と、サポーター登録者のスキルアップを行った。また、年間を通して井原保健センター事業での託児や子育て相談、井原市の主催・共催事業での託児のため、サポーターの派遣を行い、9/22には子育てイベントを開催した。	B	平成23年度より実施している井原市派遣託児サービス事業においても周知ができ、井原市が主催または共催する事業に対して子育てサポーターの派遣を行っている。しかし、平成25年度は、養成講座受講後のサポーター登録がなく、人員確保に課題がある。現サポーターについてはスキルアップに取り組んでいる。	B
		家庭教育学級（中央・各地区）、幼児教育学級、婦人学級等の支援	中央家庭教育学級では、年間5回の学習会を行い、親として子どもの自立に向けた学習と学級運営に必要な知識・技術を高めるための学習を行った。また、各地区家庭教育学級・幼児教育学級・婦人学級の運営や学習会の内容についての助言を行った。 各地区の幼児教育学級（12地区）・家庭教育学級（12地区）の平成25年度の活動報告書として、また地域での子育ての仲間や気軽に相談しあえる場の紹介として「活動のあゆみ」を500部作成し、市内保育園・幼稚園・公民館・子育て関連の公共施設などに配付した。	A	各地区の状況に応じた学習会の計画が立てられ、新しい内容のものも導入しつつ、伝統も守った内容になっている。今後は、幅広く参加者を募れるような試みが必要である。 学級生にとって、様々な地区の学級活動を知ること、今後の学級活動の参考になるとともに、まだ学級に参加していない方にとっては、学級活動を理解することができた。	A
	2. 社会教育における学習機会の提供	①子どもの学習生活環境の整備充実	子ども読書活動推進事業 絵本づくり講座の実施 読み聞かせボランティアの養成 年齢別絵本ガイドの増刷	A	親子で絵本づくりをすることで、子どもたちの絵本への興味を高めるとともに、子どもたちの創造力を養うことができた。また、読み聞かせボランティア講座を通じて、井原市で活動する読み聞かせボランティアの資質の向上を図るとともに、交流の機会を提供できた。	A
			学びのポイントラリーの推進	B	アンケート結果では、存在を知っていても参加する機会・時間が無いという意見が多くあった。プログラムを増やすことで参加機会を多くし、PRを工夫して、参加者数の確保につとめたい。	B
			子ども情報紙「でんしょばと」の発行	A	市内の子どもたちに興味を持って読んでもらえるよう、編集委員とともに工夫し、情報発信した。	A
笑って健康元気アップ事業【生活リズム向上・食育事業（のびのび合宿）の実施】			A	34名の応募があり、抽選を行って定員30名のところを31名で実施した。参加した子ども達は、他校の仲間とふれあいながら、生活習慣や食育の大切さを学んだ。	A	
（新）いばらっ子生活リズム向上プロジェクト事業			A	全市的な生活調査を実施したことで、課題の把握ができ、結果を学校と保護者に知らせ、説明会等を通じ解決に向けて一体となり取り組んでいる。	A	
ブックスタート事業の実施			A	絵本を通じて赤ちゃんの読書のきっかけづくり、赤ちゃんとの会話のきっかけづくりが出来た。	A	

	②青少年の健全育成	6/15～16に、少年団体等指導者養成講座（1日目：10名、2日目：8名参加）およびジュニアリーダー養成講座（1日目：66名、2日目：66名参加）を開催し、野外炊事やロープワーク等の講座を実施した。	A	2日間、連合少年団の専門委員が指導を行い、各単位団で行うキャンプ行事においても役立つ内容であった。	A	
	連合少年団 少年団体等指導者養成講座・ジュニアリーダー養成講座	11/9に、木之子小学校とその周辺で、井原市少年レクリエーション大会（参加チーム数36、参加人数366名）を実施し、オリエンテーリングやニュースポーツ等のレクリエーションを通して、心身の育成を図り、相互の友情を深めあった。	A	オリエンテーリングでは開催地域の自然や歴史を学び、オリエンテーリング後のレクリエーションでは学校の枠を越えた交流ができた。児童にとって貴重な体験になった。	A	
	新 少年団指導者ブックの活用	各地区の指導者に配布し、指導者養成講座等を通じて活用した。地区ごとの活動にも役立っている。	A	活動の意義、活動内容の具体例、安全対策などについて広く周知できた。	A	改定版の作成・配布等独自の取組で評価できる
	友好親善都市児童交流事業（魚津市・大田原市）の実施	【大田原市へ訪問】8/2～4 与一伝承館・天文館・日光東照宮・華厳の滝・日光江戸村・自然観察館・なかがわ水遊園など 参加児童：井原20名、大田原19名 【魚津市より来井】8/3～5 田中美術館・井原夏祭り参加・鷺羽山ハイランド・瀬戸内海遊覧・花火大会見学・与一記念弓道場弓道体験など 参加児童：井原20名、魚津20名	A	それぞれの活動を通して、両市の子どもたちがふれあうことで、親睦を深め、両市の友好を図るとともに、青少年の健全育成を図ることができた。	A	
	新成人の主體的な取り組みによる成人式の実施	成人式実行委員11名により実行委員会を4回開催し、成人式の役割分担（司会・記念品受領・市民憲章朗唱・誓いの言葉）や記念行事等の企画を行った。対象者：451人 出席者：368人 出席率：79.6%	A	実行委員会での企画運営を行い、厳粛な成人式を実施することができた。	A	素晴らしい取組である。『A』以上の評価
	地区青少年を育てる会の活動支援	補助金を交付し活動を支援している。60千円×13地区	A	活動促進のための有効な助成となった。	A	
	夏のボランティア体験事業の実施	中学生・高校生が夏休みを利用し福祉施設等で行う体験活動を補助する。	A	子ども達に貴重な体験の場を提供できた。	A	
	青少年育成センター事業、教育相談室事業の推進	青少年育成センターの事業では、井原市内の青少年の健全育成に携わる各種団体・機関との連絡調整を行い、健全育成事業の実施を行っている。また、年間を通して、市内の補導活動、バス・列車を使った近隣市町村まで往復する広域補導を行っている。教育相談室事業としては、随時相談を受け付ける他、月1回（第3金曜日）、特別教育相談日とし、より専門的な相談ができる機会をもうけている。	B	健全育成、教育相談に関して地道な活動や実績を残しているものの、市内においての知名度が低く、気軽な相談の場所としての役割が果たしていない一面もあり、さらに広報・啓発活動が必要となる。	B	
	③成人期の生涯学習	年間3講座を実施。（子育て・男女共同参画社会・生涯学習）合計参加者数227人	B	成人大学講座単独では参加者が少なく、講演内容や他講座との共同開催など、開催内容を工夫して継続実施する。	B	
	成人大学講座の開設					
④高齢期の生涯学習	寿大学院 10回 延べ参加者2,301名 芳寿大学 9回 延べ参加者1,227名 長寿学級 8回 延べ参加者1,072名 むつみ会 12回 延べ参加者 264名	A	例年多くの申込者があり、講座の内容も可能な限り要望を取り入れた。また、「笑いの講座」も各学級（むつみ会を除く）の中で1回実施した。	A	参加を楽しみにしているという高齢者の声が多い。	
	高齢者学級の開催（寿大学院、芳寿大学、長寿学級・むつみ会）					
3. 多様な学習課題への対応と学習機会の充実	①情報化に対応した情報教育の基盤整備	全5講座（エクセル、ワード、パワーポイント、デジカメ写真、年賀状）を実施。受講申込者数は延べ56名。（1講座平均11.2人）1講座につき4回実施。	B	各講座の内容をより魅力的なものにするためニーズの収集に努めた。また、市民の方への周知方法を改善し受講生を増やしていきたい。	B	
	パソコン講座の開催					
	②人権が尊重されるまちづくりの推進	井原市制施行60周年ということで、8月から1月までに例年より多い8講座を開設した。会場は井原4回、芳井1回、美星1回、井原市ふれあいセンター1回、現地研修（岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館）1回。受講者延べ人数1,243人。	B	社会教育関係者や市職員をはじめ多くの方に人権に関する様々な学習ができた。今後も、講座内容の充実やPRの工夫に努めるなど、参加者数の増加に努めたい。	B	内容は十分評価できるものであり、今後も継続して欲しい。
	くらしと人権講座の開設					
	諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進（PTA、地区、企業等）	市内全ての学校園でPTAを中心として企画された人権教育研修会が年2回程度行われている。新たな取組として、井原市国際理解市民講座を開催（木之子小PTAと連携）し、多くの市民に参加していただいた。公民館、婦人学級などでも年間の計画に沿って人権教育研修が行われている。	A	少しでも多くの方に参加してもらえよう各校園で内容や呼びかけを工夫するとともに、新たな取組を積極的に取り入れるなどして人権教育研修を充実させたい。	A	
	市長部局との連携による人権教育、啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進	「人権が尊重されるまちのつどい」を市長部局（協働推進課）と連携して開催した。「2013男女共同参画地域フォーラムinいばら」を市長部局（企画課）と連携して開催した。	A	企画・運営から関係部局と連携して開催することができ、多くの方々に研修をしてもらうことができた。	A	
	ふれあいセンターでの交流活動等の推進	5つの成人教養講座、12の小学生学習教室などのふれあい交流活動や行事（七夕まつりなど ※ふれあいセンターまつりは大雪のため中止）を主催事業として実施した。その他、支援事業として、子ども会等の行事、各種サークル、地域の団体の活動も盛んに行われている。（利用者数5,209人）	B	主催事業・支援事業ともに計画的・積極的に進められ、人々の交流の場となっている。参加の少ない活動もあり、内容やPR方法の工夫を一層進めていきたい。	B	内容は十分評価できるものであり、今後も継続して欲しい。
③生涯学習関連施設の閉館日時等の見直し	土曜日と日曜日を閉館すること、祝日によって休館日が移動しないこととし、3館の閉館日を揃えた。	A	利便性の向上と分かり易さの確保ができた。	A	土曜日と日曜日を閉館することが周知され、市民にとっても利便性の向上が図られた。	
新 アクティブライフ井原、芳井生涯学習センター、美星公民館の閉館日時等の見直し（すべての土・日曜日の閉館など）						
4. 芸術・文化活動の振興	①交流を生み出す芸術・文化の振興					
	文化講演会、コンサートの開催	スーパーライブ 11/22 いっこく堂 来場者570人 コンサート 12/13 アーティスト 研ナオコ&ひとみ 来場者505人	A	毎年開催しており、市民に定着した事業となっている。今後も市民ニーズにあった講演会、コンサートを開催していきたい。	A	
	優秀映画鑑賞会・子ども映画会の実施	優秀映画鑑賞会 4回（2会場）3作品 延べ398人（アクティブライフ井原3回、芳井生涯学習センター1回） 子ども映画会 2回（1会場）2作品 延べ234人（アクティブライフ井原）	B	優秀映画鑑賞会は美星会場が減り、4回の開催だったが、集客数は去年よりも増加している。子ども映画会は2回とも集客数が100人を超えた。	B	会場のキャバに対して利用者がまだ少ないということから『B』としているが、企画面からも評価できるイベントである。
	②成果発表の場の提供	生涯学習作品展・体験講座・舞台発表・ピアノリレーコンサート・講演会を中心に2日間の生涯学習イベントを実施 参加者数1,200人（昨年度とほぼ同数）	A	世相にあった新しいアイデアを取込みながら市制60周年を記念する祭典となるよう、関係者の協力と参加によって実施した。また、講演会講師委託料として、全国生涯学習市町村協議会研修会等補助金250千円を活用した。	A	今後も若い人の発表の場を設けるなど、新しいアイデアでイベントを盛り上げてほしい。
5. 学習ニーズの把握と学習機会の提供	①学習ニーズや意識の把握と学習機会の提供	事業実施の都度簡易アンケートを実施、今後の事業展開の目安としている。	A	次回の事業を実施する際の意見として反映することができ、アンケート実施は有用であった。今後も継続して行う。	A	
	各種事業等開催時のアンケート調査の実施					
6. 総合的な啓発事業の開催	①学習意欲を高揚するイベント等の開催	1/25、26の2日間、生涯学習の集い「まなびフェスタinいばら」を開催した。大勢の参加がある恒例の行事となっており、生涯学習推進の一助となっている。また、地区公民館において、文化祭等を開催し、作品展や舞台発表等を行った。	A	成果の発表に向けて作品等に取り組むことは、意欲を向上させるものであり、定期的にイベント等を開催する必要がある。	A	
	生涯学習の集い、文化祭等の開催					
7. 意識を高める啓発活動の推進	①CATVや広報誌等による啓発	各種の講座やイベントについて、啓発活動の一環として、市広報・CATV・お知らせくん・チラシ等を活用し、適時広報を行った。	A	市広報等は、市民に生涯学習情報提供の良い機会となり、今後も機会あるごとにタイムリーなPRに努めたい。	A	
	生涯学習に関する啓発番組や記事の掲載					

重点施策Ⅲ 生涯学習環境の整備と充実

【生涯学習課】

《施策の基本方針》

市民の多様な学習の場となる生涯学習関連施設を、計画的に整備・充実するとともに、地域住民が気軽に集い、学びながら交流できる開かれた公民館や学習施設を目指す。

また、だれもが、必要とするときに学習情報を取得することができるよう、生涯学習ガイドの発行や生涯学習情報の一元化等、迅速かつ継続的な情報収集・提供に努める。

施 策	内 容
1. 生涯学習関連施設の整備と機能の充実	<p>①生涯学習関連施設の整備と機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星の郷ふれあいセンターの活用 ・アクティブライフ井原の施設整備と活用(キッズルームの活用) ・芳井生涯学習センターの施設整備と活用 ・ふれあいセンターの整備と活用 ・美星天文台・星空公園の整備と利用促進 美星天文台(101 cm望遠鏡等)の活用による天文の普及・啓発 101 cm望遠鏡の一般公開と各種イベントの実施 ●20周年シンポジウムの開催、記念誌の作成 ●館内展示の充実に向けた検討 市内小・中学校等体験学習の推進 出前観望会等による啓発 関係団体等との交流、情報交換 星空公園での各種イベントの実施と利用促進 ・図書館の整備と機能の充実 図書館配本ネットワークの利用促進 図書館蔵書の充実 図書館書架の充実 ・●新刊図書及び図書館事業のPRと利用促進
2. 公民館の整備と機能の充実	<p>①公民館の整備と機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事の配置による地域の特徴を生かした公民館活動の推進 ・笑って健康元気アップ事業 地区公民館の企画による「笑いの講座」の開催 ・パソコン講座等の支援(貸出用パソコンの活用) ・地区公民館の施設・設備の整備充実 ・●お知らせくんを活用した情報発信
3. 生涯学習関連情報の収集と提供の充実	<p>①生涯学習ガイド等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習ガイド「まなびすと」等の作成 <p>②メディア等を活用した情報提供の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・●市ホームページでの生涯学習情報の一元化 ・CATV、広報いばら、お知らせくん等の活用

平成25年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系
Ⅲ 生涯学習環境の整備と充実

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価	
1. 生涯学習関連施設の整備と機能の充実	①生涯学習関連施設の整備と機能の充実				
	星の郷ふれあいセンターの活用	市内外・老若男女を問わず、研修・部活動・少年団活動などで年間111団体・延べ8,700人の利用があった。	B 年間利用者は前年度を約500人上回ったが、目標値である9,000人には届かなかった。新たに作成したパンフレットを配布するなど、広報活動をさらに進めていく必要を感じた。	B	
	アクティブライフ井原の施設整備と活用(キッズルームの活用)	プロジェクター購入(1台)220,500円 おもちゃ、ビデオ、絵本を配置し、利用しやすい環境整備を行った。	B 今後さらに、キッズルームの利用周知に努めたい。	B	自己評価にあるようにPRに努める必要がある。
	芳井生涯学習センターの施設整備と活用	子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の利用があり、生涯学習の場、交流の場として定着している。	A 高齢者の利用も多くあり、安全安心な施設環境を提供することができた。	A	
	ふれあいセンターの整備と活用	ふれあい七夕まつり、ふれあいセンターまつり(25年度は大雪のため中止)、人権教育講演会を始め、各講座、子ども会等の行事、各種サークル活動も盛んに行われている。	A 主催事業、共催事業に加え、地域の団体等にも盛んに利用され人々の交流がなされている。	A	
	美星天文台・星空公園の整備と利用促進 美星天文台(101cm望遠鏡等)の活用による天文の普及・啓発 101cm望遠鏡の一般公開と各種イベントの実施 20周年シンポジウムの開催、記念誌の作成 館内展示の充実に向けた検討 市内小・中学校等体験学習の推進 出前観望会等による啓発 関係団体等との交流、情報交換 星空公園での各種イベントの実施と利用促進	101cm望遠鏡一般公開等による入館者数は、昼間2,513人、夜間13,352人 計 15,865人で前年比27%増。 イベントでは、おり姫星・ひこ星を見る会(入館1,083人)、ペルセウス座流星群を見る会(同924人) ふたご座流星群を見る会(同356人)などを実施。 11月に観光協会と連携した星空サミットを開催し、シンポジウムと記念誌の配布を行った。 市内小学校4校の4年生夜間観望を受け入れ(7月~10月)、いばらアストロクラブ指導。 いきいきいばら出前講座による出前観望会を1回実施。 日本公開天文台協会名寄大会と同協会全国研修会に、それぞれ1名参加して情報交換を行った。 星空公園公開観望会9回実施 延べ119人参加。 岡山大学・アマチュア等の観測利用は30夜、延べ102人。	A 夜間観望会参加者数が前年より大幅に増加した。特に、流星群イベントの盛況により、美星の星空環境への理解が広く浸透しつつある。また、市内小学校の夜間観望が、美星小学校に加えて学校教育課によるものを3校新たに受け入れ、市民への天文普及活動も深まった。また、長野県南牧村・沖縄県石垣市と星空サミットを開催し、美しい星空について発信した。	A	星空サミットの開催市となるなど、美星天文台の星空空間にかかる情報発信に対する取り組みも評価できる。
	図書館の整備と機能の充実 図書館配本ネットワークの利用促進 図書館蔵書の充実 図書館書架の充実	公用車を利用し、より機動力のある配本ネットワークを確立することにより、利用者の利便性の向上を図った。火・金曜日→支所便を利用。水・土曜日→図書館公用車を利用 蔵書数 井原(さくら号含む)176,572冊、芳井59,196冊、美星35,233冊 3館 合計 271,001冊 美星図書館書架2台を購入した。	B 3館をネットワークで結び予約等利用者の利便性が図られた。 第6次総合計画後期目標値(平成25年度中間値)をほぼ達成できた。 蔵書数に見合った書架の増設ができた。	B	
	新刊図書及び図書館事業のPRと利用促進	市広報、ホームページ、図書館便り、各種ポスター・ちらし、お知らせくんによりPRと利用促進を図った。	A PRと利用促進が図られた。	A	
	2. 公民館の整備と機能の充実	①公民館の整備と機能の充実			
	公民館主事の配置による地域の特徴を生かした公民館活動の推進	週32時間勤務により、開かれた公民館活動を展開。	A 公民館が開いていると利用しやすい、と好評であり、主事を配置した効果は大きい。	A	公民館主事の配置により、気安く公民館へ足を運ぶことが出来る雰囲気になった。
笑って健康元気アップ事業 地区公民館の企画による「笑いの講座」の開催	稲倉公民館 11/10 参加者 90名、2/11 参加者130名 県主公民館 1/13 参加者100名 大江公民館 3/ 8 参加者150名	A 来場者の方から、好評の声を多くいただき、十分に目的を達成している。	A		
パソコン講座等の支援(貸出用パソコンの活用)	46件 延べ309台の貸出	A 定期的に貸出しされており、十分活用されている。	A		
地区公民館の施設・設備の整備充実	大江公民館建設等整備、出部公民館建設等整備 青野公民館給水管布設替工事	A 地元からの要望を可能な範囲で取り入れながら、利用しやすい公民館の整備を進めている。	A		
新お知らせくんを活用した情報発信	各公民館から地区住民に対し、イベント等の情報発信を行った。	A 毎日放送している地区もあり、積極的に活用されている。	A		
3. 生涯学習関連情報の収集と提供の充実	①生涯学習ガイド等の充実				
生涯学習ガイド「まなびすと」等の作成	公民館、生涯学習関連施設等へ500部作成し配付した。内容も、生涯学習情報だけでなく、文化・スポーツ等幅広い情報の掲載に努めた。	A 掲載内容と紙面の一層の工夫を行い、多くの人が活用できるよう努めたい。	A		
②メディア等を活用した情報提供の充実					
新市ホームページでの生涯学習情報の一元化	生涯学習課、健康医療課、子育て支援課、図書館情報の一元化策として、平成26年度から生涯学習カレンダーをホームページ上に設けるよう準備を進めた。	A 実施に向けて関係各課と連携し準備ができた。	A		
CATV、広報いばら、お知らせくん等の活用	広く市民に周知し参加してもらえるよう、機会あるごとに、ホームページの更新、CATVの出演等を行い、市広報やお知らせくんを通じ、行事の紹介や広報活動を積極的に行った。	B 広く市民が参加できるよう、積極的なPRが今後必要である。	B		

重点施策Ⅳ 市民と行政の協働による生涯学習の推進

【生涯学習課】

《施策の基本方針》

市民のさまざまなニーズを的確に把握した魅力ある施策や、社会情勢の変化、新たな課題等へ的確に対応するため、井原市第6次総合計画後期計画の策定にあわせて見直した、井原市第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づき、各種施策を実施する。

また、さまざまな分野で活躍している指導者や、地域に埋もれている人材の発掘、地域活動で大きな役割を担う社会教育関係団体等の育成を行う。

さらに、市民と行政が協働でまちづくりを進めていくための学習講座として開催している「いきいきいばら出前講座」の充実や、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業、「まなびめいと」の活動支援等に積極的に取り組む。

施 策	内 容
1. 生涯学習推進本部の機能の充実	①生涯学習基本構想・基本計画に基づく施策の推進 ・ 新 第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づく施策の推進 ②社会教育委員会の機能の拡充強化 ・社会教育委員の研修等の充実
2. 生涯学習をすすめる市民組織づくりと活動支援	①市民組織づくりと活動支援 ・アクティブライフ井原「まなびめいと」等の活動支援
3. 生涯学習推進担当の体制整備	①生涯学習推進担当の整備 ・計画的な社会教育主事の育成
4. 生涯学習リーダー等の養成と人材バンクの充実	①人材活用の拡充 ・ボランティアの増員やふるさと人材バンクの充実と活動の推進
5. 社会教育関係団体等の育成・支援	①成人団体や青少年団体の育成・支援 ・地区青少年を育てる会、連合少年団、婦人協議会、PTA連合会の育成・支援
6. 出前講座の充実	①出前講座の拡充と充実 ・いきいきいばら出前講座の充実と利用促進
7. NPOや民間団体等との協働による事業の推進	①NPOや民間団体等との協働による事業の推進 ・学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業 ・放課後子ども教室事業の実施（井原・芳井・美星小学校区） ・学校支援地域本部事業の実施（大江・野上・井原・西江原小） ・まなびめいと（少年少女合唱団・ジュニア絵画クラブ・ジュニア弦楽合奏団）の活動支援

平成25年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

IV 市民と行政の協働による生涯学習の推進

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価	
1. 生涯学習推進本部の機能の充実	①生涯学習基本構想・基本計画に基づく施策の推進 新 第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づく施策の推進	「生涯学習社会に対応する学習機会の提供・生涯学習環境の整備と充実・市民と行政の協働による生涯学習の推進・目標値の設定と計画の推進」を念頭に、家庭・地域・学校との連携を含め事業を実施している。	A	A	生涯学習推進本部の機能充実のためには、会議の開催が必須である。機能充実度で評価されるべきである。
	②社会教育委員会の機能の拡充強化 社会教育委員の研修等の充実	年3回（6月、12月、3月）委員会を開催した。また、岡山県及び備中地区社会教育委員連絡協議会の実施する研修会をはじめ中四国地区研究大会へも積極的に参加した。	A	A	
2. 生涯学習をすすめる市民組織づくりと活動支援	①市民組織づくりと活動支援 アクティブライフ井原「まなびめいと」等の活動支援	事務局として「まなびめいと」のすべての事業に協力、支援した。 ・いろは塾①ホテルを見る会、②化石を探そう、③防災教室 ・あたごっち大作戦、まなびフェスタへの出店 ・各種サークル等の活動支援、そのほか年間を通じて生涯学習情報誌の発行など。	A	A	事業の企画から実施まで、活動の支援は十分にできた。
3. 生涯学習推進担当の体制整備	①生涯学習推進担当の整備 計画的な社会教育主事の育成	社会教育主事講習を平成22年度に1名、24年度に1名受講させ、社会教育主事有資格者の増に努めた。	A	A	社会教育主事有資格者の育成を行うことができた。社会教育主事の現場での活躍を期待する。
4. 生涯学習リーダー等の養成と人材バンクの充実	①人材活用の拡充 ボランティアの増員やふるさと人材バンクの充実と活動の推進	井原市ふるさと人材バンクは、指導者紹介件数0件（昨年度2件）、登録2件であった。人材を確保し、幅広く利用していただけるようチラシを作成し、各地区公民館に配付した。	B	B	事業PRが不足していた。今後、人材確保に努めるとともに、利用率の促進に向けた広報を積極的にしていきたい。
5. 社会教育関係団体等の育成・支援	①成人団体や青少年団体の育成・支援 地区青少年を育てる会、連合少年団、女性協議会、PTA連合会の育成・支援	【補助金の交付】 井原市女性協議会 840千円 井原市PTA連合会 140千円 井原市連合少年団協議会 300千円 地区青少年を育てる会等 780千円（60千円×13地区） 井原市手をつなぐ親たちの会 130千円 友好親善都市交流事業費 1,030千円 井原警察署管内少年警察協働員連絡協議会 100千円 井原市人権教育協議会 75千円	A	A	活動促進のための有効な助成となった。事業内容が衰退している団体もあり、運営体制のサポート面でのフォローも必要ではないか。
6. 出前講座の充実	①出前講座の拡充と充実 いきいきいばら出前講座の充実と利用促進	出前講座を実施（講座回数 93回、受講者数2,665人） （24年度 講座回数109回、受講者数2,417人）	A	A	講座回数が昨年度に比べてやや落ちているが、受講者数は増えているため、1回の講座における集客数は上昇している。評価も『B』から『A』へアップしており、今後も継続して実施されたい。
7. NPOや民間団体等との協働による事業の推進	①NPOや民間団体等との協働による事業の推進	放課後子ども教室事業 子どもたちに安心・安全な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、スポーツ・文化活動・体験活動等を実施することによって、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行った。 【井原】いばら子どもサロン 【芳井】よしいいきいきキッズクラブ 【美星】星の郷ふれあいサロン	A	A	放課後子ども教室事業 各地区ともに、工夫をこらした様々な事業を実施することで、子どもたちの健やかな育成を図ることができた。
	学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業 放課後子ども教室事業の実施（井原・芳井・美星小学校区） 学校支援地域本部事業の実施（大江・野上・井原・西江原小）	学校支援地域本部事業 大江小学校、野上小学校、井原小学校、西江原小学校の4小学校に支援本部をおき、学習支援、環境整備、学校行事の支援、子どもの安全確保などのボランティア活動が地域住民の協力を得て行われた。未実施校に対して呼びかけを行い、3小学校区、1中学校にて次年度の開設に向けて準備を進めている。	A	A	学校支援地域本部事業 年を重ねる毎に活動が円滑に行われており、教育効果も上がっている。また、学校だけではなく地域を元気にする相乗効果も見られている。新規実施校の拡大も進めていきたい。
	まなびめいと（少年少女合唱団・ジュニア絵画クラブ・ジュニア弦楽合奏団）の活動支援	事務局として事務的な運営を支援した。少年少女合唱団が、合唱フェスティバル・谷村新司「ココロの学校」・与まつり・まなびフェスタに出演、年末にはきのこセイモンで慰問コンサートを行った。まなびフェスタでは絵画クラブによる作品展示、合唱・弦楽による舞台発表を披露した。	A	A	少子化や塾などの都合により、年々会員が減少しつつあるが、活動支援は十分に行った。

重点施策Ⅴ 豊かな感性を育むまちづくり
(スポーツ活動の充実)

【スポーツ課】

《施策の基本方針》

指導者登録制度、「ふるさと人材バンク」等の活用により、指導者・ボランティアを育成・確保し、スポーツ少年団やスポーツ団体の育成を図るとともに、総合型地域スポーツクラブ「いばら生き生きクラブ」の運営面・財政面での自立を支援する。

また、市民一人ひとりの年齢や体力、興味に応じてスポーツに取り組めるよう、スポーツ教室やスポーツイベント等の内容の充実を図り、多くの市民がスポーツを楽しみ、自主的なスポーツ活動を通して交流できる環境づくりを進める。

競技スポーツの振興としては、体育協会、文化・スポーツ振興協会等との連携により、ハイレベルな大会に接する機会を提供するとともに、各種体育施設の体系的な整備により効率的な活用を図り、スポーツ指導者の確保やスポーツクラブの育成に努める。さらに、ジュニアからの育成支援を充実させ、全国レベルのスポーツを育てるための環境整備を図る。なかでも、「新体操のまち井原」をめざして設立された女子ジュニア新体操クラブの活動推進に努める。

なお、平成25年度は、市制施行60周年記念事業として宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボールを開催し、市民にプロ野球選手との交流の機会を図る。

さらに、井原市グラウンド・ゴルフ場の開場を機に、グラウンド・ゴルフのさらなる普及を目指すとともに、ニュースポーツの普及による生涯スポーツの振興にも努め市民の健康づくりを推進する。

施 策	内 容
1. 生涯スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと人材バンクの活用 指導者・ボランティアの育成・確保 ・いばら生き生きクラブの自立支援 ソフトバレーボール ゴルフ 弓道 ソフトテニス テニス 陸上競技 卓球 合気道 華道 茶道 陶芸 野球 (11サークル1教室) ・ニュースポーツのPRと備品の貸出
2. 競技スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の活用(各種スポーツ大会の開催) (井原体育館・芳井体育館) バレーボール大会 卓球大会 バドミントン大会 空手道大会 柔道大会 剣道大会 合気道演武会 ソフトバレーボール大会 新体操大会 (陸上競技場・芳井運動場・美星運動場) 陸上選手権大会 サッカー大会 ソフトボール大会 少年ソフトボール大会 ゲートボール大会 (野球場) 野球大会 少年野球大会 (庭球場) 庭球大会

	<p>(弓道場) 弓道大会</p> <p>(グラウンド・ゴルフ場) グラウンド・ゴルフ大会</p> <p>(ごんぼう村ふれあい広場) サッカー大会 少年サッカー大会</p> <p>(ロード) 市民サイクリング大会 井原市駅伝競走大会 県高校駅伝競走大会 (男女)</p> <p>(リフレッシュ公園野球場) 軟式野球大会 ソフトボール大会 少年ソフトボール大会</p> <p>(リフレッシュ公園多目的広場) 少年サッカー大会</p> <p>(井原海洋センター) 水泳記録会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の育成 ソフトボール指導者・審判 バレーボール審判 野球審判 サッカー審判 等講習会の開催 ・団体の育成支援 体育協会 各スポーツ協会 スポーツ少年団 高等学校 グループ等の活動支援 井原高校 井原ジュニア新体操クラブ s p a r k l e 井 原R. Gの新体操選手育成強化支援 ・全市的行事としての取り組み 全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権 大会 星の郷ふれあい健康マラソン大会 井原カップ男子新体操競技大会 井原新体操フェスティバル 市民ゴルフ大会 ・スポーツ功績者・団体の表彰・顕彰 スポーツに功績をあげた個人・団体を表彰・顕彰
<p>3. 健康づくり・体力づく り・仲間づくりとしての スポーツの振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第51回市民体育祭の開催 ・各種スポーツ教室の開催 (スポーツ人口の拡大) 弓道 庭球 卓球 バドミントン 水泳 新体操 等各種 スポーツ教室の開催 ・グラウンド・ゴルフ場の利用促進事業の開催 ・井原・魚津スポーツ交流 しんきろうマラソンへの選手団派遣 シニア・ジュニア野球チーム交流事業
<p>4. 文化・スポーツ振興 協会との連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの普及振興に寄与する事業及び活動を行う個人・団 体への助成事業 ⑨ 市制施行60周年記念事業 <ul style="list-style-type: none"> ・宝くじスポーツフェア事業 (ドリーム・ベースボール) ・記念ビデオ作成事業 ⑨ 「晴れの国岡山」駅伝競走大会選手派遣事業 ・スポーツ競技に功績をあげた者への激励事業

平成25年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

V 豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
1. 生涯スポーツの振興	いばら生き生きクラブの自立支援 ソフトバレーボール ゴルフ 弓道 ソフトテニス テニス 陸上競技 卓球 合気道 華道 茶道 陶芸 野球 (11サークル1教室)	いばら生き生きクラブ(12種目会員数366名)	B	総合型地域スポーツクラブへの財政的支援及び人的支援に努めた。 会員数は若干減少傾向にあるが目標値は達している。	B	アスリートの育成と同様、子どもから老人まで歩くだけでも元気さUPへの取組となり、井原市の医療費削減ともなる。 井原放送での『市民スポーツの日』のPRは良かった。イベントは雨で中止となったが、今後を期待している。
	ニュースポーツのPRと備品の貸出	グラウンド・ゴルフ(15件)、ユニホック(6件)、ディスクゴルフ(2件)、ベタンク(1件) フライングディスク(2件)、チャレンジ・ザ・ゲーム(2件)、ソフトバレーボール(5件) 綱引き(4件)、ターゲット・バードゴルフ(1件)、ゲートボール(2件)、ティーボール(7件) ディスコン(8件)、キンボール(3件)、長縄(6件)、玉入れ(16件)	B	ホームページ等で備品のPRをするなど積極的に貸し出しを行い、ニュースポーツの普及、振興を図った。貸出しも増加したが、さらなる周知を図る。	B	貸出備品も充実しているため、公民館・学校・少年団等にもっとPRし、有効に活用されることを期待する。
2. 競技スポーツの振興	スポーツ施設の活用 (各種スポーツ大会の開催) (井原体育館・芳井体育館) バレーボール大会 卓球大会 バドミントン大会 空手道大会 柔道大会 剣道大会 合気道演武会 ソフトバレーボール大会 新体操大会	バレーボール大会(4大会491名参加) 卓球大会(1大会142名参加) バドミントン大会(2大会510名参加) 空手道大会(1大会16名参加) 柔道大会(1大会192名参加) 剣道大会(1大会33名参加) 合気道体験会(1大会62名参加) ソフトバレーボール大会(2大会145名参加) 井原カップ男子新体操競技大会(1大会150名参加) 井原新体操フェスティバル(1大会130名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。参加者は増加しており、活用は図られた。	A	
	(陸上競技場・芳井運動場・美星運動場) 陸上選手権大会 サッカー大会 ソフトボール大会 少年ソフトボール大会 ゲートボール大会	陸上競技大会(1大会309名参加) サッカー大会(1大会355名参加) ソフトボール大会(1大会460名参加) 少年ソフトボール大会(1大会423名参加) ゲートボール大会(2大会355名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。参加者は横ばいであり、さらなる周知を図る。	A	
	(野球場) 野球大会 少年野球大会	野球大会(4大会900名参加)、スポーツ少年団による招待試合及び大会等が開催された。	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけたが参加者は横ばいである。さらなる周知を図る。	A	
	(庭球場) 庭球大会	庭球大会(3大会341名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。参加者は微増しており、さらなる周知を図る。	A	
	(弓道場) 弓道大会	弓道大会(2大会66名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。参加者は横ばいであり、さらなる周知を図る。	A	弓道場は市外の方も多く利用している。関係者だけでなく一般市民にも、もっと広く利用して欲しい。
	(グラウンド・ゴルフ場) グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフ大会(3大会852名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。さらなる周知を行い、高齢者のスポーツ活動拠点となるだけでなく、市民の健康づくり等になるよう努めた。	A	
	(ごんぼう村ふれあい広場) サッカー大会 少年サッカー大会	スポーツ少年団、各クラブチームによる招待試合及び大会等が開催された。	B	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。毎年開催される市以外の大会があり一定の成果はあげているが、さらなる周知を図る。	B	
	(ロード) 市民サイクリング大会 井原市駅伝競走大会 県高校駅伝競走大会(男女)	サイクリング大会(1大会16名参加)、駅伝競走大会(1大会554名参加)、県高等学校駅伝競走大会(1大会443名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。参加者は減少傾向にあり、さらなる周知を図る。	A	
	(リフレッシュ公園野球場) 軟式野球大会 ソフトボール大会 少年ソフトボール大会	軟式野球大会(4大会900名参加) ソフトボール大会(1大会460名参加) 少年ソフトボール大会(1大会423名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。参加者は横ばいであり、さらなる周知を図る。	A	利用状況は、市内外の方が半々位で、大いに利用されている。
	(リフレッシュ公園多目的広場) 少年サッカー大会	スポーツ少年団、各クラブチームによる招待試合及び大会等が開催された。	B	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。利用頻度が非常に高く毎年開催される市以外の大会があり一定の成果はあげているが、さらなる周知を図る。	B	
	(井原海洋センター) 水泳記録会	海洋スポーツ大会 【B&Gスポーツ大会岡山県大会(21名参加)、B&Gスポーツ大会中国ブロック大会(15名参加)】	B	自然に親しむとともに、体力づくり・仲間づくりが図れた。	B	
	指導者の育成 ソフトボール指導者・審判 バレーボール審判 野球審判 サッカー審判 等講習会の開催	ソフトボール審判講習会(49名参加) バレーボール審判講習会(72名参加) 軟式野球審判講習会(62名参加)	B	スポーツ振興に不可欠である指導者、審判員の養成に努めた。	B	
団体の育成支援 体育協会 各スポーツ協会 スポーツ少年団 高等学校 グループ等の活動支援 井原高校 井原ジュニア新体操クラブ sparkle井原R.Gの新体操選手育成強化支援	いばら生き生きクラブ(12種目会員数366名 補助金500千円) 井原市体育協会(47大会実施約13,000名参加 補助金2,394千円) 興譲館高校陸上競技部(補助金1,000千円) 井原高校新体操部(補助金2,200千円) ジュニア新体操クラブ(補助金950千円) sparkle井原R.G(補助金750千円)	A	各種スポーツ団体への財政的支援及び人的支援に努めた。	A		

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
	全市的行事としての取り組み 全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会 星の郷ふれあい健康マラソン大会 井原カップ男子新体操競技大会 井原新体操フェスティバル 市民ゴルフ大会	全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会 (2,062名参加) 星の郷ふれあい健康マラソン大会 (865名参加) 井原カップ男子新体操競技大会 (150名参加) 井原新体操フェスティバル (130名参加) 市民ゴルフ大会 (146名参加)	A	市民スポーツの振興と健康づくりに努めるとともに「新体操のまち井原」の推進を図った。今後も参加者の増加を図るため、より魅力ある大会としていく。	A	
	スポーツ功績者・団体の表彰・顕彰 スポーツに功績をあげた個人・団体を表彰・顕彰	井原市スポーツ奨励賞授与(3名) 体育協会長表彰(功労者特別1名 功労者4名 優秀選手35名 優秀団体10団体)	A	優秀な選手及び功労者への激励・顕彰並びに市民への周知が図られた。	A	
3. 健康づくり・体づくり・仲間づくりとしてのスポーツの振興	第51回市民体育祭の開催	15種目、オープン2種目に1,500名の参加があった。	A	スポーツ水準の向上と体育レクリエーション活動の振興に努めた。	A	
	各種スポーツ教室の開催(スポーツ人口の拡大) 弓道 庭球 卓球 バドミントン 水泳 新体操 等各種スポーツ教室の開催	弓道教室(11名参加)、庭球(テニス教室(20名参加)、ソフトテニス教室(19名参加)) 卓球教室(12名参加)、バドミントン教室(16名参加)、水泳教室(20教室918名参加) 新体操教室(女子)(13名参加)	B	主に初心者を対象としたスポーツ教室の開催により、底辺の拡大が図られた。各教室において受講者が減少傾向にあり、さらなる周知を図る。	B	
	グラウンド・ゴルフ場の利用促進事業の開催	井原市GG大会(1大会251名参加) 会員親睦GG大会(2大会463名参加) 公民館三代GG大会(1大会138名参加)	A	市民がスポーツに接する機会をつくり、参加を呼びかけた。さらなる周知を行い、高齢者のスポーツ活動拠点となるだけでなく、市民の健康づくり等になるよう努めた。	A	
	井原・魚津スポーツ交流 しんきろうマラソンへの選手団派遣 シニア・ジュニア野球チーム交流事業	井原・魚津スポーツ交流事業(補助金410千円) マラソン大会(団長、選手11名) 野球交流大会(シニア選手17名、ジュニア選手10名)	A	友好親善都市とのスポーツ交流を通して、より友好を深めた。	A	
4. 文化・スポーツ振興協会との連携強化	スポーツの普及振興に寄与する事業及び活動を行う個人・団体への助成事業 ① 市制施行60周年記念事業 ・宝くじスポーツフェア事業(ドリーム・ベースボール) ・記念ビデオ作成事業 ② 「晴れの国岡山」駅伝競走大会選手派遣事業	全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会 助成額 1,982,431円 宝くじスポーツフェア「ドリーム・ベースボール」 委託額 1,073,097円 「文化・スポーツで振り返る井原の60年」ビデオ制作 委託額 997,500円 「晴れの国岡山」駅伝競走大会 助成額 140,017円	A	市民に、マラソン大会を通してレベルの高い選手に接する機会を提供することができた。また、市制施行60周年を祝うとともに、元プロ野球選手との親善試合や野球教室等の実施によりスポーツの振興及び青少年の健全な育成や明るいまちづくりに資するを目的に準備をしたが、当日警報発令のため中止となる。文化・スポーツを通して60年の歴史を振り返るとともに本市文化・スポーツの変遷をビデオに残し後世に伝えるよう努めた。	A	ドリームベースボール大会は、天候不良のため中止となり残念であった。「晴れの国岡山」駅伝競走大会は、見事優勝という喜ばしい結果であった。
	スポーツ競技に功績をあげた者への激励事業	激励金(全日本都道府県対抗剣道優勝大会 外59大会 延263名 激励金支給額1,285,000円)	A	スポーツ競技等で、全国大会・中国大会に出場する選手を対象に激励金交付式を行い、激励金を交付した。	A	今後もぜひ継続して欲しい。選手たちも非常に喜んでいる。

重点施策Ⅵ 地域文化を体感できる活力あるまちづくり
(芸術・文化の振興と文化財の保存・活用)

【文化課】

《施策の基本方針》

市民が生涯にわたって豊かな情操を養い、潤いのある生活を築き、個性ある地域文化を創造するために、また、本市が市制60周年目にあたり優れた芸術文化にふれあう機会を拡充するとともに、芸術・文化団体の育成を図るなど、市民の芸術文化活動を促進する。

さらに、多くの市民が芸術・文化活動に主体的に参画することにより、市内・市外、老若男女を問わず、交流の輪が広がるよう、多様な芸術文化イベントの開催や芸術文化活動の拠点づくりを進める。

あらゆる文化財の保存を計画的に進め、市民の文化財保護意識と郷土愛を育むとともに、先人が守り伝えた文化遺産の積極的な活用を図る。

施 策	内 容
1. 交流を生み出す芸術・文化の振興 (1) 芸術文化活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと人材バンクの活用 ・文化協会、各文化グループ等の育成・支援 ・文化祭、文化教室での創作活動の推進 ・ 市制60周年記念事業 <ul style="list-style-type: none"> 井原今昔写真展の開催 懐かしの井原展の開催 地域住民のためのコンサートの開催 ・スクールコンサートの開催 ・井原市文学賞の開催 ・観月会の開催 ・岡山県美術展覧会井原会場の開催 ・田中美術館企画展・特別展の開催 <ul style="list-style-type: none">  市制60周年記念春季特別展 「片岡鶴太郎展－精霊椿－」 市制60周年記念秋季特別展 「彫刻家 高村光太郎展」 第26回平櫛田中賞受賞記念展 ・田中美術館友の会の支援 ・市民ギャラリーの利用促進 ・市民茶室の利用促進
(2) 芸術・文化を通じた多様な交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民芸能祭 ・市民大学講座

<p>(3)文化施設の整備と特色づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民会館自主事業 ・ 井原市史・芳井町史・美星町史等の活用及び販売促進 ・ 田中美術館所蔵作品の修復 ・ 平櫛田中賞受賞作家の作品購入 ・ ⑧ 田中美術館監視カメラ増設及びトイレ改修事業 ・ ⑨ 田中苑整備（パコラ塗裝修繕、ベンチ購入）
<p>2. 文化財の保存と活用</p> <p>(1)文化財・歴史的資源の保存・活用</p> <p>(2)伝統芸能や祭りの保存・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財保護審議会の開催(指定文化財の検討) ・ 文化財センターの活用 埋蔵文化財の整理事業 体験講座・考古学講座・文化財めぐりの開催 ・ 文化財センター企画展の開催 ・ 歴史講座の開催 ・ 歴史人物紹介事業の実施（最終年度） 井原放送による番組の制作・放映 Web公開システムのメンテナンス実施 ・ 出前講座の推進 ・ 歴史民俗資料館の活用 ・ 歴史民俗資料館特別展・企画展の開催 ・ 星の郷民具伝承館の活用 ・ 桜溪漢学塾公園の管理・活用 ・ 名勝鬼ヶ嶽保存管理計画の運用による景観保全 ・ 文化財保護・保存及び助成事業 ・ ⑩ 井原方言集の編集及び発刊 ・ 伝統芸能の保存・継承 渡り拍子保存会 鳥羽踊り保存会など
<p>3. 文化・スポーツ振興協会との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種文化事業への助成 ・ 文化功績者への激励事業 ・ 文化活動団体への助成事業 ・ 地域住民のためのコンサートの開催（再掲） ・ スクールコンサートの開催（再掲） ・ 井原市文学賞の開催（再掲） ・ 文化講演会の開催

平成25年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

VI 地域文化を体感できる活力あるまちづくり（芸術・文化の振興と文化財の保存・活用）

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
1. 交流を生み出す芸術・文化の振興 (1) 芸術文化活動の活性化	文化協会、各文化グループ等の育成・支援	28 専門部と 48 文化教室が活動。「文化協会だより」年 4 回発行。文化祭での発表、展示ふるさと探訪の旅、児童生徒文芸大会。芳井、美星支部芸能発表会の開催。文化協会へ 1,467 千円補助	B	専門部、教室とも活動は盛況であるが、会員、受講生が減少傾向である。継続的な支援を行うとともに若年層の掘り起こしに努める必要がある。	B	会員・受講生とも前年より減少の為『A』⇒『B』としているが、活動内容は充実している。
	文化祭、文化教室での創作活動	文化祭では、11月2日・3日の2日間、各専門部、各文化教室の1年間の作品展示、発表を行った。また、市民ギャラリーにおいてもそれぞれの部、教室ごとに展示、発表を行った。芳井・美星支部においては、3月に芸能発表会を開催した。	A	各専門部、教室を支援することで文化祭等の作品、発表の機会も増え、創作活動の充実が図れた。	A	
	新 市制施行60周年記念事業の実施	・井原今昔写真展の開催（4/27～6/30：芳井歴史民俗資料館春季企画展、井原、美星巡回） 井原市制施行当時の懐かしい写真を紹介。636人入場（芳井歴史民俗資料館のみ） ・懐かしの井原展の開催（7/27～9/29：芳井歴史民俗資料館夏季企画展、井原、美星巡回） 笠岡の洋画家三笠氏の井原地域の懐かしい風景画を紹介。286人入場（芳井歴史民俗資料館のみ） ・地域住民のためのコンサート（8/18：アクティブ井原メルヘンホール） 三井住友文化財団、文化スポーツ振興協会助成による若手演奏家のクラシックコンサート 入場者223人	A	市内を巡回することにより多くの入場者があり、市制施行60周年を盛り上げることができた。	A	市制施行60周年記念事業では、井原今昔写真展の開催等ユニークな企画で多くの方の評判を呼んだ。また、市内を巡回することにより、より多くの市民の方が触れあうことが出来た。
	スクールコンサートの開催	井原市民会館ホールにおいて9月17日の午後1回公演。出演者は「弦奏の森」鑑賞校は6校（高屋小・大江小・稲倉小・荏原小・井原小・芳井小）総数598人の参加。文化・スポーツ振興協会とさくらライオンズクラブの助成金で運営	A	生演奏を身近で鑑賞したり、指揮者体験や楽器にふれることで豊かな情操を養うことができ、児童の健全育成に努めた。	A	
	井原市文学賞の開催	6部門（短歌・俳句・現代詩・漢詩・川柳・随筆）で作品を募集 応募作品総数87点	A	応募点数が減少傾向にあるため、広報を活発にするなど応募数増加に努めた。	A	
	観月会の開催	市民会館・田中苑一帯で、9月21日に実施。3流派（表千家・裏千家・上田宗箇）の茶席と三曲の演奏を行なった。市内外より多くの方が来場し、盛会であった。	A	仲秋の名月にかかわる日本の伝統行事を行うことにより地域文化の向上を図ることができた。また、市内の邦楽愛好家、茶道愛好家の発表の場となった。	A	
	岡山県美術展覧会井原会場の開催	市民会館、市民ギャラリーを会場に10月10日～14日に開催。日本画・洋画・工芸・写真・書道・彫刻・デザインの7部門の展示が行われ、市内外より1,381人の入場があった。	A	井笠地域の入賞者の作品を中心に展示が行われ、多くの来場があり、市民に優れた作品の鑑賞機会を設けることができた。	A	
	田中美術館企画展・特別展の開催	・新 春季特別展「片岡鶴太郎展」 入館者数 9,492人 ・新 秋季特別展「彫刻家 高村光太郎展」 入館者数 10,768人 ・冬季特別展「第26回平櫛田中賞受賞記念展 大平賞展」 入館者数 2,212人 ・春季 夏季 冬季所蔵品展 入館者数 3,991人 平成25年度総 入館者数 26,463人	A	平成25年度は、特別展を3回開催し、目標入館者を達成した。高村光太郎展がNHKの日曜美術館で取り上げられるなど、質の高い展覧会を開催できた。	A	多くの方々に足を運んでいただき、良い企画展であった。NHKの日曜美術館にもとりあげていただいたが、民放にもっと働きかけてはどうか。
	田中美術館友の会の支援	田中美術館友の会事務局を担当し、会が行う各種事業（会報発行、美術講座、美術鑑賞旅行、子供教室等）の開催支援を行った。友の会会員に対し、所蔵品展の無料入館と、春秋冬の特別展での2名無料入館の優待を実施し、会員の美術にふれる活動を支援した。	B	展覧会優待支援により、豊かな情操を養う機会の提供ができた。美術鑑賞旅行の実施により、会員相互の教養・親睦を深められた。	B	
	市民ギャラリーの利用促進	文化協会・文化教室等10団体、県展の会場など作品展示等に使用した。	B	身近な作品発表の場として利用促進が図られたが、漏水があるなど施設面で利用者に不便をかけた。	B	
	市民茶室の利用促進	月釜と「生き生きクラブ」による茶道教室が定例で41件使用している。観月会・文化祭・その他の茶道を楽しむグループの利用が4件ある。	B	観月会、文化祭、月釜など茶の湯を楽しむ機会を提供することで利用促進が図れた。	B	
	(2) 芸術・文化を通じた多様な交流の推進	市民芸能祭	4月14日に30団体、300名の出演により開催、入場者数についても680人であった。	A	市民会館閉館を記念し、昭和46年より始まった市民出演の芸能祭で、毎年300名程度の出演があり、市民の芸能の発表の場として市民の間に定着している。	A
市民大学講座		6月30日森永卓郎氏、7月10日コシノ・ジュンコ氏の講演会を開催。受講者数は、両講座合計で1,428人と盛会であった。	A	昭和56年より市民夏期大学としては始まり、文化や教養を高める講座として定着している。	A	
井原市史・芳井町史・美星町史等の活用及び販売促進		販売：井原市史 5冊、芳井町史 1冊、美星町史 2セット、文化財等図書 89冊	B	文化財センター講座等の開催時に広報・PR、販売に努めた。	B	
(3) 文化施設の整備と特色づくり	田中美術館所蔵作品の修復	平櫛田中木彫作品「慶典読書奉仕」「雲林」2点、平櫛田中書作品「円通」1点を修復。	A	制作後、長年月を経過した作品であり、収蔵前よりのシミ、カビがあったが修復により除去され、作品の価値が高まった。	A	
	平櫛田中賞作家の作品購入	大平賞彫刻作品「弱虫ドラゴン#2」「木霊#2」2点を購入。	A	現代に生きる第一級の芸術家の作品を新たに収蔵することにより、市民に常時優れた美術を鑑賞する機会を増やすことが出来た。	A	
	新 田中美術館監視カメラ増設及びトイレ改修事業の実施	監視カメラを増設するとともに記録装置、モニターの更新を行った。また、トイレを和式から洋式へ改修した。	A	展示作品の監視が充実するとともに、来館者の利便性が向上した。	A	監視カメラを2台増設し、記録媒体を更新することで監視面の機能充実が図られた。
	新 田中苑整備の実施	田中苑内の老朽化していたパーゴラの塗装修繕を実施するとともに、ベンチ4脚を購入した。	A	市民の憩いの場である田中苑の利便性が向上した。	A	市内外の方が利用される施設であり、景観性は特に重要視される。

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
2. 文化財の保存と活用 (1) 文化財・歴史的資源の保存・活用	文化財保護審議会の開催（指定文化財の検討）	1回開催。文化財指定についての協議及び指定文化財の現状変更申請状況の報告を行い、高山寺収蔵施設新築、永祥寺実峰良秀像（県重文）の視察を実施した。	B	文化財の保護及び保存を進めるとともに紹介事業の推進が図れた。	B	
	文化財センターの活用					
	埋蔵文化財の整理事業	市内で確認調査、立会調査を実施。その調査で出土した遺物の整理を行った。	B	遺物の整理をすることにより、市内遺跡のデータの蓄積が図れた。	B	
	体験講座・考古学講座・文化財めぐりの開催	センター講座として年10回実施。（参加者：延べ277人）	A	井原市内の歴史及び文化財についてその活用を図り、学習の機会を提供できた。各講座でほぼ定員に達し、昨年度より参加者数が増加した。	A	
	文化財センター企画展の開催	年4回、季節ごとに特色あるテーマで開催。（入場者：延べ1,855人）	A	普段見ることができない近隣の遺跡や郷土の資料を紹介することができた。	A	
	歴史講座の開催	年2回（2月22日・3月1日）アクティブライフ井原で実施。テーマ「仏教美術の世界」。参加者計：138人。	B	郷土や近隣の仏教美術について再認識を図ることができたが昨年度より参加者数は減少した。	B	
	歴史人物紹介事業の実施					
	井原放送による番組の制作・放映	平成25年度で、12人分の番組を作成。毎月1人、井原放送で5分間放映。（本年度が最終年）	A	平成23年度から3年計画で、井原放送により井原市ゆかりの36人の偉人紹介をする事業で、その内3ヶ年目。12人について放映、市民に広く情報発信できた。	A	
	Web公開システムのメンテナンス実施	毎月、Web公開システムのメンテナンス及び人物紹介番組のホームページへの更新作業を実施。	A	Web公開システムのメンテナンス及び人物紹介番組を更新することにより、インターネット上で広く情報発信できた。	A	
	出前講座の推進	市民団体他の申し出により随時出前講座を実施。（参加者：延べ1,108人）	A	市民団体他からの要望により積極的に出前講座を実施し、講座参加者がほぼ昨年並みあり、教養・文化の向上が図れた。	A	
	歴史民俗資料館の活用	郷土の偉人を中心に常設展を開催。入場者数319人。	A	入館者が昨年度より増加。市内の偉人、歴史について理解が図れた。	A	
	歴史民俗資料館特別展・企画展の開催	芳井歴史民俗資料館 特別展：1回開催 464人、企画展：2回開催 922人、来館者 計1,705人。	A	市制施行60周年記念の企画展を2回実施。市内外より多くの入場者があった。	A	
	星の郷民具伝承館の活用	地域に残された民具を収蔵。展示。入場者数：24人。	B	職員が常駐していないため利用者の増加がなかなか図れないが、民具を利用した講座を実施するなど資料の活用が図れた。	B	
	桜溪漢学塾公園の管理・活用	桜溪塾公園の清掃管理を行うとともに、建物の管理を地元へ委託した。入館者は把握できていない。	B	管理はできているが、活用については十分なことができていない。	B	
名勝鬼ヶ嶽保存管理計画の運用による景観保全	県文化財保護指導員を含め、名勝鬼ヶ嶽保存管理計画に基づき、鬼ヶ嶽温泉開発事業を中心とした監視の強化に努め、景観保全を行った。なお鬼ヶ嶽温泉再開発事業については、開発者の経済的事情により中断している。	B	名勝鬼ヶ嶽の景観保全を図ることができるよう、監視に努めた。	B	開発事業については、文化庁からの許可期限もあり早急に所有者と話し合いの場を設け、協議して頂きたい。	
文化財保護・保存及び助成事業の実施	25年度は助成事業なし。	D	引き続き、貴重な文化遺産が保存できるよう情報収集に努める。	D		
新 井原市方言集の編集	編集委員のアンケートをもとに編集作業を行い、内容について編集委員会を2回開催。『井原の方言集 井原地方の話しことば』を2,000冊発刊した。	A	失われつつある貴重な方言を記録として残すことができた。また地域や市外より注目されるとともに学校教育の場で活用されるよう努めた。	A	井原市出身の方にも好評であった。	
(2) 伝統芸能や祭りの保存・活用	伝統芸能の保存・継承					
	渡り拍子保存会	渡り拍子保存会2団体へ活動費の補助を実施。	A	活動の補助を行うことにより、地域に伝承される伝統文化の保存・継承が図られた。	A	
	鳥羽踊り保存会など	国の助成事業である伝統文化親子体験教室事業により、鳥羽踊り保存会を含め市内保存団体のうち5団体が事業実施。	A	活動の補助を行うことにより、地域に伝承される伝統文化の保存・継承が図られた。	A	
3. 文化・スポーツ振興協会との連携	各種文化事業への助成	助成金（井原市文学賞、スクールコンサート、地域住民のためのコンサート）	A	市民の創作活動の援助や豊かな情操を養う機会の提供、優秀な芸術鑑賞の機会を設けることができたが、文学賞の応募者は、横ばいの状況であった。	A	
	文化功績者への激励事業	「第45回全日本吹奏楽コンクール中国大会」外6大会で、36人に激励金の交付をした。	A	地域文化の向上が図られた。	A	激励金の交付基準を明確にする必要がある。
	文化活動団体への助成事業	該当団体なし。	D	引き続き助成対象団体の把握に努める。	D	
	文化講演会の開催	宝くじまちの音楽会に応募していたが選考に漏れたため実施していない。	D	引き続き優秀で集客力のある講（公）演の情報収集に努める。	D	

重点施策Ⅶ

生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり
(時代に対応した教育施設・機能の整備・充実)

【関係課】

《施策の基本方針》

安全で安心な教育環境づくりのために、学校施設関係では、市立高校の移転新築に伴う設計や美星中学校武道場の建替えをはじめとした営繕工事に取り組むなど、教育施設の計画的な整備を図るとともに、確かな学力向上のため、教育用パソコンの更新をはじめ、学習指導機器や蔵書等の充実に努めるほか、小・中学校における教育ネットワークの構築、さらなる情報教育機器の充実に努めるため「井原市学校情報化計画」を策定する。

また、社会教育施設関係では、大江公民館の建替えや出部公民館の敷地造成工事に取り組むほか、芳井生涯学習センターの屋根改修、田中美術館のトイレ改修など、施設・設備の充実に努めることにより、地域文化を体感できるまちづくりに努める。

施 策	内 容
1. 学校（園）施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○美星中学校武道場改築工事 ○市立高校用地取得及び建設工事設計委託 ○営繕工事 <ul style="list-style-type: none"> 小学校 10件（トイレ改修、側溝修繕工事等） 中学校 7件（体育館屋根防水工事等） 幼稚園 5件（トイレ洋式化工事等） 給食センター 1件（洗浄室床及び調味庫修繕） ○校具、教具備品 <ul style="list-style-type: none"> 小学校 教員用パソコン、電子複写機等 教育用パソコン、滑り台、シーソー、登り棒、オルガン、てこの働き実験器、アンプスピーカー等 中学校 教員用パソコン 教育用パソコン、ホルン、ビブラフォン マリンバ、シロフォン 幼稚園 ワイヤレスアンプ、電子複写機、保育テーブル、椅子、掲示板等 給食センター 厨房器具、職員用パソコン ○「井原市学校情報化計画」の策定
2. 社会教育施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館建設工事及び備品整備(大江)、用地取得及び敷地造成工事(出部)、建築設計等委託(出部)、水道設備

	<p>更新工事(青野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(公民館職員用パソコン、エアコン、冷蔵庫、パンフレットスタンド、ファクシミリ、AED等)
	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年育成センター <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(職員用パソコン、シュレッダー) ○ふれあいセンター <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(人権啓発教材、職員用パソコン) ○アクティブライフ井原 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場舗装修繕工事、給水ポンプ更新工事 ・備品の整備(視聴覚ライブラリー用DVD、プロジェクター) ○芳井生涯学習センター <ul style="list-style-type: none"> ・屋上屋根改修工事 ○美星天文台 <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道灯修繕 ・備品の整備(職員用パソコン、エアコンの更新等) ○田中美術館 <ul style="list-style-type: none"> ・監視カメラ増設改修 ・備品の整備(美術作品、田中苑ベンチ、除湿機) ○図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(書架、図書、DVD、CD)

平成25年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

VII 生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり（時代に対応した教育施設・機能の整備・充実）

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価	
1. 学校（園）施設・設備の整備	美星中武道場建設工事	鉄骨造平屋 321㎡ 78,635,600円（建設工事、設計、地質調査等）	A	計画どおり事業を推進することができた。	計画どおり事業は推進されていた。
	市立高校整備	124,652,512円（用地買収（4,318㎡）、設計、測量、地質調査等）	A	計画どおり事業を推進することができた。	
	営繕工事				
	小学校（11件）	22,657,950円 ○石積補強工事（大江）○校舎屋根・軒裏修繕工事（西江原）○放送設備更新工事（美星） ○国旗掲揚台改修、トイレ改修（障害者対応）工事（荏原）○トイレ洋式化工事（稲倉） ○トイレ換気扇設置工事（美星）○プール排水ポンプ設置工事（芳井）○体育館屋根防水工事（木之子） ○校舎屋根防水工事（出部）○側溝修繕工事（出部）○空調機設置工事（教育相談室）	A	計画どおり事業を推進することができた。	
	中学校（7件）	10,431,750円 ○国旗掲揚台・通用門等改修工事（木之子）○電気（ｷｰﾍﾞﾙ）・運動場放送設備改修工事（井原） ○インターホン修繕工事（高屋）○黒板張替工事（芳井）○体育館屋根防水工事（高屋） ○武道場修繕工事（高屋）○屋根防水工事（井原）	A	計画どおり事業を推進することができた。	
	幼稚園（5件）	1,498,350円 ○漏水修繕工事（大江）○トイレ洋式化工事（大江、稲倉）○非常通報装置増設工事（荏原、出部）			
	給食センター（1件）	1,585,500円 ○洗浄室等塗り床修繕及び木製棚ステンレス板張り（美星調理場）			
	校具、教具備品				
	小学校	64,399,838円 管理備品（教員用パソコン、物置、配膳台、身長・体重計、複写機、印刷機 等） 振興備品（教育用パソコン、理科教育等備品、デジタルテレビ、遊具、楽器 等）	A	計画どおり事業を推進することができた。	
	中学校	44,434,645円 管理備品（教員用パソコン、電話機 等） 振興備品（教育用パソコン、理科教育等備品、楽器 等）	A	計画どおり事業を推進することができた。	
幼稚園	5,474,917円 教員用パソコン、複写機、物置、ワイヤレスアンプ、物置、玩具 等				
給食センター	2,977,650円 炊飯ジャー、フードスライサー、コンテナ、事務用パソコン				
井原市学校情報化計画の策定	本市の情報化社会に的確に対応した教育環境の整備を図るための指針として策定する	B	素案を策定（平成26年度に策定済）	B	
2. 社会教育施設・設備の整備	(公民館)				計画どおり事業は推進されていた。
	大江公民館建設工事	156,519,300円 （建設工事、外構工事、解体工事、用地測量）	A	公民館の建設にあたっては、地元からの要望を可能な限り取り入れながら、利用しやすい公民館の整備を進めるとともに、利用者の安心・安全の確保のための改修工事を施工した。	
	出部公民館整備工事	52,263,689円 （用地買収1,473㎡）、造成工事、設計、地質調査 等）	A		
	青野公民館整備工事	1,413,300円 （給水管布設替工事）			
	備品の整備	大江公民館新規備品 7,714,085円 その他の公民館 4,775,421円 事務用パソコン15台、テント（大江1張）、エアコン（木之子、荏原、明治分館各1台） 印刷機（高屋1台）、デジタル複合機（青野1台）、フルカラー複写機（井原1台） AED（明治分館、共和分館、三原分館各1台）	A	公民館活動を行う上で必要な備品の整備、充実に努めた。	
	(青少年育成センター)				
	備品の整備	事務用パソコン（3台）415,800円、シュレッダー（1台）18,900円	A	備品の整備により、個人情報の漏洩防止を図るとともに、円滑な事務処理ができる環境の整備に努めた。	
	(ふれあいセンター)				
	備品の整備	人権啓発DVD（3枚）213,360円、事務用パソコン（2台）278,670円 ファックス（1台）19,200円	A	人権啓発教材の充実が図れた。	
	(アクティブライフ井原)				
	営繕工事	駐車場整備工事（ライン・フェンス）1,043,332円 給水設備改修工事 1,653,750円 エレベーター改修（年次計画）121,800円 非常用発電機始動用蓄電池交換 315,000円 ふれあいプラザ空調機修理 819,000円 エアコンフィルタ取替 157,500円	A	駐車場の整備、エレベーターの計画的改修等を実施し、利用者の利便性の向上や安全の確保に努めた。	
	備品の整備	視聴覚ライブラリー用DVD（父と暮らせば、恋谷橋、ミッキーマウス、月とあざらし、ハードル） 309,015円 プロジェクター 220,500円	A	視聴覚ライブラリーの充実を図ることができた。	
	(芳井生涯学習センター)				
営繕工事	18,795,000円（屋上屋根防水工事）	A	防水工事の実施により、施設の延命化を図ることができた。		
(美星天文台)					
営繕工事等	遊歩道灯整備 1,123,500円 パソコン（5台）747,390円 制御室エアコン更新 349,650円 書籍 30,360円	A	遊歩道灯の整備により、来館者等の安全の確保ができた。		
(図書館)					
備品の整備	美星図書館書架2台、図書10,195冊、DVD29枚、CD29枚、録音図書19本	B	蔵書の充実に努めるとともに、蔵書数に見合った書架を増設した。		